看 護 部

はじめに

令和５年度は、前年度12月に労働基準監督署から指導を受けた適正な時間管理が大きな課題で、看護部全体で取組みをした。診療体制では、５月からはCOVID-19が感染症法上の５類に移行し、当館では全病棟でCOVID-19患者の受け入れを始め、平時の診療体制に移行していった。

目標１の適正な時間管理は、看護部の最重要課題とし多方面から取組みを実施した。まずは、中間管理職の労務管理の知識強化のため、副看護師長以上を対象に４回研修会を開催。全部署で時間管理に関する取組みを実施した。また総務担当副看護師長会議を新設し、当館の規定、診療報酬による人員の考え方、法律などから労務管理早わかりマニュアルを作成し、現場での労務管理に活用出来るものとなった。

看護職員個々が適正に時間管理が出来るように、自己研鑽と業務を明確にし、休憩時間の確実な取得及び未取得時の時間外勤務申請を周知し続けた。

年次有給休暇取得のルール化は、各部署安全に業務遂行できる人員を明確にし、現場の看護師の意見を取入れ、有給休暇５日以上取得を目指した。

目標２では、バイタルサイン医療機器連携の使用状況は、遅延時間が20分まで短縮した。看護補助者の活用では、業務改善員会で議論を重ね「看護師と看護補助者の協働」と方針を定め、体制整備も含め次年度も取組みを継続することにした。

目標３では、病院目標を意識した病床管理は、目標達成には至らなかった。しかし病院として「DPCⅡ期間最終日」退院を徹底することになった。診療科と各部署が連携を図り、DPC期間Ⅱ適合状況は35％から57％へ上昇した。この取組みは、在院延べ人数の増加や増収に繋がり、次年度も継続とする。

その他、各部署の業務均霑化と看護職員夜間配置加算16対１（一般病棟全部署夜勤３人体制）では、７月から７階西及び３階西の病床再編、５階西・南と北病棟の合併を行い、８月から算定を開始した。

算定開始で増収になったが、看護師の夜勤従事者及び看護補助者の確保については難渋した。子育て支援充実に伴い、夜勤従事者の増加は見込めず、夜勤専従看護師を各部署１ターム１名以上配置することにした。夜勤専従看護師の希望者が90名であったことから、皆さんのご協力には感謝をしている。

またナースエイドの安定確保では、困難を極めた。看護学生に頼らないナースエイドの雇用形態では、派遣雇用を開始し、期限付きナースエイドの雇用に向け、職員給与規程の改正が提案されている。

目標４では、看護師81名がラダーの取得、学会には26名発表をした。目標５では、次年度病院機能評価受審にむけて、学習会を重ね準備をしている。

その他、新たに認定看護管理者１名、認定看護師２名が誕生し、専門認定看護師は総勢26名、特定行為研修修了者は23名となった。

＜令和５年度の看護部門目標＞

１．適正な時間管理
　１）中間管理職の労務管理の知識を強化し適正な時間管理の実施
　２）ルールに基づく時間管理
　３）年次有給休暇取得の促進

２．業務改善、業務整理の推進
　１）「ムダ・ムリ・ムラ」の視点での業務の整理、削減、移行
　　①看護記録の整理とICTの活用
　　②看護補助者のさらなる活用

３．健全経営への積極的な参画
　１）病院目標を意識した病床管理
　　・病床利用率　80％
　　・病床稼働率　89％
　　・DPCⅡ期超え　30％未満
　２）効果的な病床管理と人員配置
　　①看護職員夜間配置加算16対１の取得
　　②先を見越した人員確保と病床編成への対応
　　③各部署の業務均霑化への取り組み
　３）夜間100対１急性期補助体制加算の維持に向けた看護補助者の確保と配置

４．学習する組織を目指したキャリア支援
　１）看護職キャリアラダーの浸透
　　①看護師個々人に合ったキャリア支援の継続
　　②「自己教育・研究能力」向上への支援
　２）中間管理職の育成

5．その他
1）令和６年度病院機能評価更新に向けた準備
2）専門・認定看護師、特定行為研修修了者の活動の拡大
3）効果的な実習環境の整備

（文責：宮地　由美子）

Ⅰ．看護職員に関すること

1．看護部職員構成等（令和５年４月１日現在）

1）助産師・看護師数　577名
助産師　24名
看護師　553名
期限付看護師　（10名）
臨時看護師　（7名）
・４／１付採用　助産師・看護師　32名
内訳）助産師　新卒：３名
既卒：１名
看護師　新卒：27名
既卒：５名

2）看護部組織

看護師・助産師	577名
ナースエイド	51名
病棟クラーク	14名
外来受付事務	15名
院内ポーター	4名
病棟保育士	0名
ボランティアコーディネーター	1名
期限付事務	1名
総計	663名

3）免許所有者

看護師免許	577名
助産師免許	32名
保健師免許	38名

4）離職率（日本看護協会実態調査算出法）
令和５年度　4.7%　（前年度　7.9%）

5）職員状況
・平均年齢　35.4歳（前年度 35.2歳）
＊再雇用７名除く

年　齢	人　数
20歳～29歳	202(36.5%)
30歳～39歳	154(27.8%)
40歳～49歳	132(23.9%)
50歳～59歳	65(11.8%)
60歳～	7(1.3%)
合　計	560名

・男性看護師　52名　9.0%（前年度　9.4%）
・平均勤務年数　10.3年（前年度 10.5年）
・既婚率　52.4%（前年度 52.3%）

2．妊娠・子育てに関する支援

働き方改革、子育て支援の充実により、育児休業復帰者の100%が育児部分休業、育児短時間勤務、深夜勤無制限などの支援を受けて就業している状況であった。今の子育て世代を応援し看護師が永く働ける職場環境を整えることは、今後の少子化に伴う働き手不足への対策として重要な鍵となる。また、男性職員の子育て支援の産後パパ育休・育児休業についても令和３年度から延７名が取得しており、今後も取得促進に向けた支援を継続する。

《育児休業の状況》

項　目	令和５年度	前年度
育児休業取得	77名 今年度入 34名	79名 当該年度入 33名
年間休業	20名	18名

《育児休業復帰者の状況》

項　目	令和５年度	前年度
育児休業復帰	33名	30名
平均育児休業期間	18.1か月	17.1か月

《妊娠・育児に関する支援制度利用状況：延べ》

項　目	令和５年度	前年度
育児休暇 育児部分休業 育児短時間勤務	20名 50名 33名	18名 44名 25名
合　計	103名	87名

《深夜勤務制限の状況》

項　目	令和５年度	前年度
深夜勤務制限（育児）	11名	17名
深夜勤務制限（妊娠）	12名	3名

3．看護職員採用に関すること

看護師・助産師の採用については、看護職員配置加算16：１に向け全病棟３人夜勤を実現するため18名増で採用活動を行った。令和６年度には49名が採用となる。令和７年度採用に向けた活動も３月２日のマイナビ就職説明会（於福岡）参加を皮切りに早期から開始した。

看護補助者の採用は、今年度も夜勤時間確保のためトワイライトナースエイドの採用活動を強化した。佐賀県内の看護学校を訪問し、多様な働き方に対応出来ることをアピールした。その効果か、佐賀女子高等学校衛生看護専攻科や西九州大学の学生が増え、夜勤時間は確保できた。しかし、５階西合併で平均在院患者数が300人超となった事や、実習による休みも多く、対応に苦慮する状況もあった。安定した雇用への取り組みが今後の課題であると考える。

（文責：淵上　直子）

Ⅱ．活動実績

１．看護部

看護部目標の達成に向け、取り組んだ内容をまとめると共に､取り組んだ事柄について併せて述べる。

１）労務に関すること

今年度は、看護部目標として掲げている、中間管理職の労務管理の知識強化と適正な時間管理及びルールに基づく時間管理を達成するべく副看護師長会議の教育･業務に加え、総務担当を任命し、労務に関する下記の事項について取り組んだ。

①服務について

②勤務時間・時間外勤務等の時間管理

③休日・休暇

④子育て・介護支援

総務担当副看護師長会議として今年度は、上記項目毎にグループで学習し知識の獲得と均霑化を図った。取り組みの成果として、労務に関する知識を、現場で看護師長、副看護師長、スタッフが活用できるよう「労務早わかり一覧」にまとめた。これをもとに中間管理職が現場で実践し、スタッフ指導に繋げる事が今後の課題である。

（文責：淵上　直子）

２）病床再編

令和５年度、部署の業務の均霑化及び夜間看護体制の充実を図るために５階西南病棟と５階西北病棟を合併し、５階西病棟となった。また、３階西病棟、７階西病棟の病床再編を行い、８月から看護職員夜間配置加算16対１を算定している。

病床再編の対象となった部署スタッフは物品の調整及び療養環境の整備と診療科の治療、看護について学習会等行い、患者への安全な医療を提供できるよう体制を整えた。７月当初は患者からの戸惑いの言葉が聞かれたが、都度、入院患者へ丁寧な説明を行い、理解を求めた。現在では、病棟再編に関する苦情等は聞かれない。

病棟診療科再編

病棟	診療科	診療科（7月～）
３階西病棟	腎臓内科/整形外科/糖尿病代謝内科	腎臓内科/泌尿器科
５階西病棟	５階西・南 小児科/小児外科/小児共通	小児科/小児外科/乳腺外科/皮膚科/糖尿病代謝内科/形成外科/整形外科
	５階西・北 乳腺外科/整形外科/皮膚科	
７階西病棟	肝胆膵内科/消化器内科/泌尿器科	肝胆膵内科/消化器内科/整形外科

（文責：伊東　美知代）

３）夜勤体制整備

平成25年に新病院に移転以来、病棟の病床数によって５階西･北病棟、５階西･南病棟及び３階西病棟は、夜勤の看護師が２名体制であった。現在の患者の高齢化、疾病構造の多様化等に伴い夜間の看護ケアを充実させるため夜勤体制整備が必要となった。

７月の５階西病棟合併と病床再編を機に看護職員の配置を調整し、一般入院基本料の10部署全てで３人夜勤とした。結果、夜間の看護ケア充実を目的とした看護職員配置加算16：１算定に繋がった。

（文責：淵上　直子）

４）教育に関すること

①学習する組織を目指したキャリア支援

目標：看護職キャリアラダーの浸透

・看護師個々人に合ったキャリア支援の継続

・「自己教育・研究能力」向上への支援

キャリアラダー支援として、看護部職員研修（院内研修）を54企画し、延べ1,326名が受講した。院外研修では、101の研修に234名参加し、看護師個々人に合ったキャリア支援の継続に繋がった。

「自己教育・研修能力」向上の支援では、14の学会に26名が発表した。来年度は当館が主催する学会も控えているので、更なる能力向上への支援に努めていく。

キャリアラダー導入後３年が経過し、令和５年度新規レベル認定者数は81名だった。暫定レベルからレベル認定への移行率は

34％で、当初5年でのレベル認定移行が目標であったが、その検討と今後の学習支援のあり方が課題である。

②中間管理職研修

看護部部門目標：中間管理職の育成

研修目標：中間管理職として労務管理の知識を強化し、適切な時間管理を実施する

今年度は看護師長20名、副看護師長55名の75名を対象に研修を行った。外部講師に特定社会保険労務士の東島芳子氏を迎え、労務管理について学習した。更に、部署で適正な時間管理として各目標を立て取組んだ。実践報告会では、適正な時間外申請９部署、休憩時間の取得３部署、勤務内の業務調整２部署、業務調整（タスク・シフト）２部署、交代勤務の引継ぎ１部署の取組みを共有した。

成果として、時間外事前申請率が16.5％から97.2％に増した部署や、日勤帯の１時間休憩取得が100％になった部署があった。来年度も中間管理職の育成を継続し、組織的役割遂行能力の向上に繋げていく。

（文責：池田　恵子）

5）看護補助者の活用

今年度看護部門目標であった「業務改善、業務整理の促進」の中の「看護補助者のさらなる活用」を挙げ、業務担当副看護師長会議と業務改善委員会を中心に取り組んだ。

目標：1　ナースエイドが看護補助業務を安全に実践できる教育の充実を図る

昨年度同様、現場の実践状況がわかる業務担当副看護師長会議が研修を企画、計画し、教育運営委員と協働で実施した。

令和５年度看護補助者研修実績

	研修項目	対象者	受講者
1	看護補助者の役割と業務内容	全看護補助者	16名
2	接遇・チームでの役割	ナースエイド	40名
3	移乗・移送	ナースエイド	30名
4	環境整備　シーツ交換	ナースエイド	32名
5	体位変換　清潔ケア	ナースエイド	34名
★	院内研修に含めるべき基礎知識	ナースエイド	37名（中途採用者）
☆	院内研修に含めるべき基礎知識	ナースエイド	30名（未受講者）

急性期看護補助体制加算算定維持に向け、短時間勤務及び土日勤務者の雇用が増加、入職時期やナースエイドの多様な働き方に応じた教育方法が課題となった。次年度は、入職時期やナースエイドの実践能力に応じ、集合研修から現場の状況に即したOJTを導入した教育を計画している。

目標：2　ナースエイドが安心して看護補助業務を実践できる体制を整備する

ナースエイドへの業務委譲・協働状況を「看護補助業務調査」の結果、以下のことが課題となった。

(1) ナースエイドへの業務委譲については、ルールを明確にする。

(2) 現場の状況に即したナースエイドへの教育が必要である。

当館の急性期病院の特性に応じた現場での実践を伴った教育を要し、OJTに移行する時期となっている。急性期病院である当館の機能と患者の状態を踏まえ「看護師とナースエイドとの協働」を主体とする業務移譲を推進できるよう支援していく。

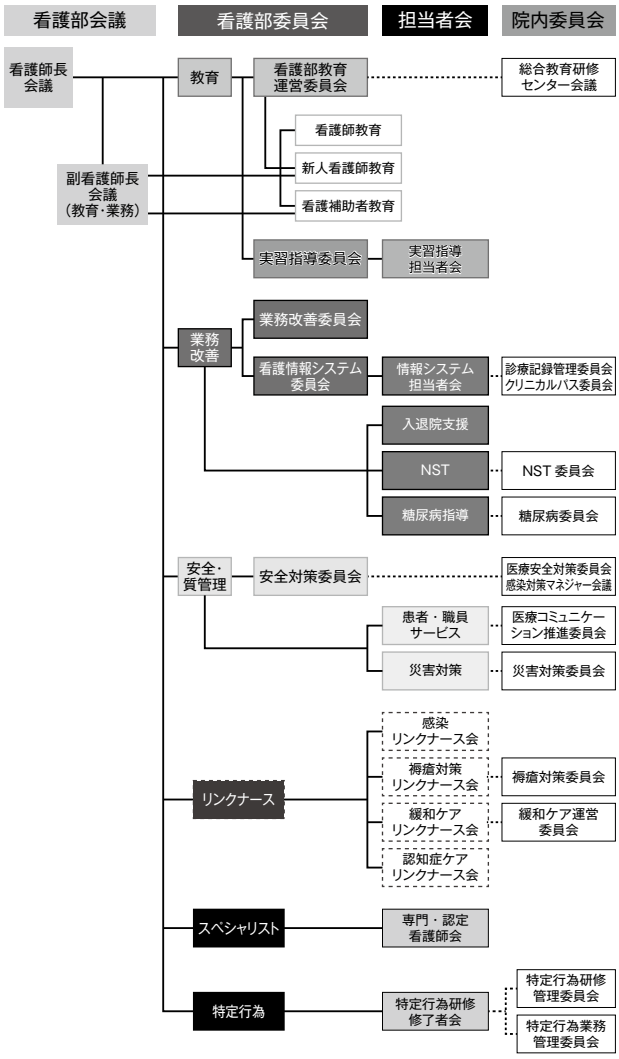
（文責：伊東　美知代）

2．看護部委員会、リンクナース会等

看護部の会議や委員会、担当者会の役割と位置づけ、院内委員会について「看護部会議・委員会・担当者会組織図」として表し活動した。

佐賀県医療センター好生館
看護部会議・委員会・担当者会組織図

令和５年４月１日



（文責：淵上　直子）

１）看護部教育運営委員会

目標：１　研修・OJT・役割遂行がつながる看護職員研修の企画・運営・評価を行う

２　キャリアラダー認定プロセスに沿ってレベルⅠ～Ⅴの認定を行う

令和５年度の教育計画は、キャリアラダーに沿った66項目の研修を実施し、看護職、看護補助者延べ1,750名が受講した。今年度は、特定行為研修修了者や認定看護師と協力し、新たに「臨床実践向上研修（呼吸療法）」を開催した。ラダーに関しては、個々の看護職が自己の実践能力を評価し、レベルⅠ～Ⅴにおいて、レベルⅠ22名・レベルⅡ25名・レベルⅢ23名・レベルⅣ11名、合計81名のレベル認定を行った。レベルⅤ受講者はいなかった。

次年度は、新人看護職員教育体制の再構築に向けて、実地指導者の育成に着手していく。

（文責：金原　直美）

２）実習指導委員会

目標：学生の受け入れ体制を整え、学生の心理的安全性に繋げる

学生が心理的安全性を保ち、実習しやすい環境とするために、看護教育雑誌の「学生・教員が元気になる 心理的安全性」を共有し、フィードバックの方法と承認欲求を満たす取組みを行った。実習指導者担当者会と協同して、学生の心理的安全性について知識共有し実践に繋げた。学校側より、指導者からの言葉掛けを行う場面をよく目にするようになり、看護師のロールモデルが増しているという意見が聞かれた。

各部署での困り事や不安を把握するためのアンケートでは、実習評価の難しさや記録の指導があがった。学校側とも結果を共有し、実習前の指導者会議で説明する等調整を行った。また、実習指導マニュアルの改訂を行い、より活用しやすいものへ整理した。次年度は学生の心理的安全性に繋げる取組を継続し、学生が実習しやすい環境改善に努めていく。

（文責：江頭　望）

３）業務改善委員会

目標：看護補助者の直接ケアに関わる指示の見える化

今年度は、看護職と看護補助者の協働体制の整備に向けて、看護補助業務実践調査と看護師と看護補助者の業務に関する協働状況について調査を行った。調査によって、看護補助業務の実践状況が部署で異なる状況があったが、集合研修での学びをOJTに繋げるよう部署で実践する機会を持つよう周知した。また、看護補助者業務実践の機会が一番多かった出棟に関する移乗・移送について、看護師とナースエイドの協働スケジュール、ナースエイド単独実践の判断基準、ナースエイドへの指示と記録について明文化した。次年度から導入とし、順次、全ての直接ケアに関しても協働体制の整備を行う。

（文責：野中　貴子）

４）看護情報システム委員会

目標：１　看護記録質監査体制の構築

２　必要な汎用入力項目の明確化と業務整理

今年度は、看護記録と看護実践の質向上を目指し、看護記録質監査体制の構築と、343件の看護記録質監査を実施した。昨年度より開始した看護記録形式監査は、1,142件実施し、その結果は各部署にフィードバックした。監査を行うことで自己の看護や記録を振り返る機会となった。看護記録監査の年間スケジュールは看護記録マニュアルに追記し、マニュアルの同時改訂を行った。

電子カルテの汎用実施入力では、看護師間で入力の理解度に差が生じていたため、看護の汎用実施入力について明確にし、汎用項目の整理を行った。

今後は看護記録の質・形式監査を継続し、システム化への移行を検討していく。

（文責：日高　典子）

5）安全対策委員会

目標：身体拘束のマニュアルに基づく運用の現状調査

令和５年度は、次年度に控えた病院機能評価に備えて、身体拘束の適切な運用と身体拘束低減に向けた取り組みについて検討した。身体拘束の割合を調査し、運用上の課題を調べた結果、指示入力の徹底やガイドラインに基づく身体拘束マニュアルの見直しが必要なことがわかった。そこで安全で身体拘束の要件に沿った、患者や家族の意向に配慮した検討を行い、指示及び同意書や身体拘束マニュアル、身体拘束カンファレンス記録の改訂を検討した。組織として身体拘束低減にむけた、組織的な多職種での取り組みに繋げていきたい。

（文責：有馬　浩史）

6）感染リンクナース会

目標：１　自部署での感染管理の問題に対しICTおよび看護師長・スタッフと共に解決策を考え実践する

２　グループで院内の療養環境・作業環境の整理に取り組む

目標達成のために、講義やラウンド、グループワークなどの内容で計７回開催した。特に、手指衛生実施向上を目的とした部署別クリーンハンドキャンペーンでは看護師長と共に取り組むことができた。また、リンクナースが４グループに分かれて床頭台、TV台の整理、ナースカートの整理、膀胱留置カテーテルの管理、手指衛生向上に取り組んだ。館内統一した環境整備ができるようルール作成・可視化を行った。来年度は、今年度作成したツールを用いて、感染対策の実施状況の確認、継続につなげていきたい。

（文責：三好　恵美子）

7）褥瘡対策リンクナース会

目標：褥瘡対策リンクナースが自部署の課題解決に取り組むことができる

今年度は、褥瘡対策リンクナースが昨年度の褥瘡発生データを基に自部署の問題を明らかにし課題解決に向け取り組めるよう仕組みを整えた。自部署の特徴を踏まえ、褥瘡発生状況を分析することで、アプローチすべき点が明確になった。年度末には各部署実践報告をまとめ発表することができ、各部署次年度の課題も見えた。

褥瘡発生率は、日本病院QIプロジェクトのベンチマーク0.05～0.1％に対し自施設は0.036％と良好な成績であった。次年度以降も質の高い看護提供を目指し、褥瘡発生率の低減に向け取り組む。

（文責：下村　聡美）

8）緩和ケアリンクナース会

目標：緩和ケアに必要な知識・技術を習得し、患者や家族が抱えている問題に対応できる

今年度は、前年度より取り組みを行っていた「苦痛のスクリーニングの運用」の準備が整い、８月からICT化へ移行した。各病棟のリンクナースや緩和ケア認定看護師が、CITAで対象となる患者の把握できるようになり、早期介入ができるようになった。がん患者一人ひとりに応じた援助が増え、より良いケアとなるように継続をする。今回のシステムを活用して、緩和ケア認定看護師が苦痛の緩和で介入した件数は33件/10ヶ月であった。

実地研修では、緩和ケアリンクナース10名を対象に緩和ケアの基礎を学び、自身の看護を振り返る機会となった。

患者の苦痛を理解し、専門的看護の重要性や認定看護師の役割と活用への理解に繋がった。

（文責：井上　真弓）

9）認知症ケアリンクナース会

目標：認知症ケアリンクナースが、自部署における認知症ケアの向上に関して、文献検

索を含めた取り組みができる

知識・技術を得るための研修として、認知症ケア加算１について、ユマニチュードでのロールプレイ、せん妄患者への関わり方、精神薬の作用・副作用などの項目で行った。

目標に関しては、各部署での取り組みにおいて、ユマニチュードの実践的取り組みやせん妄予防対策として不眠不穏時薬の使用、CAMICUの活用、認知症ケアの実施状況の確認など文献検索を活用した発表があった。しかし、自部署の認知症ケアに関する問題点を抽出する過程において、知識不足が挙がっており実際のケアと連動していない結果も見られていた。今後も認知症高齢者が増加していくため、基本的な認知症の症状が理解でき、現実的ケアを実施できることが課題である。

（文責：花房　喜代治）

10）専門・認定看護師会

令和５年度も前年度に引き続き、専門・認定看護師それぞれが現場からの相談に迅速に対応し、指導や支援に力を入れた。特に今年度は、在宅支援、多施設との情報共有などシームレスな支援に重きを置き、受持看護師を巻き込んで取り組んだ。

３月の看護実践報告会では、「～看護実践の強い味方～シームレスな看護実践のために専門・認定看護師ができること」をテーマに、精神疾患合併妊婦の育児支援、がん患者の最期を支える支援など４症例を報告した。

（文責：淵上　直子）

11）特定行為研修修了者会

（１）特定行為研修修了者会

目標：特定行為実践が多方面に与えるアウトカムを明らかにする。

今年度は、特定行為研修修了者が23名となり、特定行為の実施件数は2,516件で、昨年度から792件増加した（図１）。特定行為分類別では、侵襲的陽圧換気の設定の変更が722件と最も多く実施していた。

救急領域の検査プロトコールでは、令和５年３月に開始し63件実施した。麻酔管理領域では、令和５年８月から術後疼痛管理チームとして活動を開始した。麻酔科医・薬剤との対応件数は、1,562件だった。いずれも令和５年から開始して、今年度のアウトカムから令和６年度アウトカム評価へと繋げていく事が課題である。

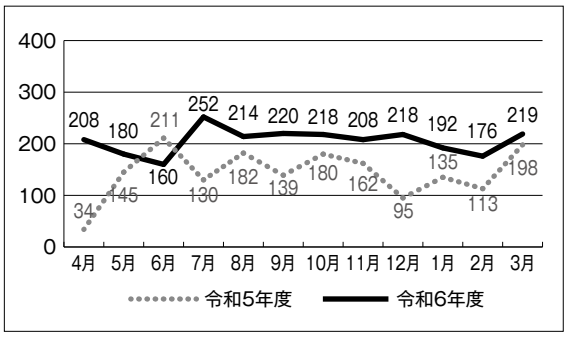


図１　特定行為の実施件数

（２）特定行為研修修了者の活動

令和５年12月６日にハイブリッド形式で開催し、会場51名とZoom46名の合計97名が参加した。演題は以下の６席で、県内外の施設との実践共有の機会となった。

①池田恵子：特定行為研修修了者の活動報告
②後藤明日香：長期人工呼吸器管理から離脱に成功した先天性疾患の１例
③小柳未恵：心臓血管外科周手術期の人工呼吸離脱のプログラムの実践～人工呼吸器装着期間の短縮に向けて～
④宮本裕太：家族と医療者の葛藤～「挿管して治療を望む」終末期患者との関わり～
⑤デブリードマンによる特定行為の実践
⑥満岡大貴：周術期における特定行為研修修了者の役割

（文責：池田　恵子）

12）実習指導担当者会

目標：実習指導担当者以外のスタッフが実習指導を出来るように、臨地実習指導パスの見直し、修正をおこなう

全看護職員が実習指導者の役割を理解し、学生の指導が出来る体制づくりとして、看護部臨地実習指導調整パスの見直しをおこなった。パスに記載している項目が多く、重複していたため整理を行った。さらに、実習指導担当者の意見を反映し、カンファレンス日程や日々の指導看護師を書き込む欄を設け、スタッフが目を通す機会が増えるように工夫した。また、継続した支援が出来るように伝達等の自由記載欄を追加した。各部署の担当者はそれぞれの部署での困り事や工夫点について積極的に意見を出し、皆で活用しやすいパスとすることが出来た。

（文責：江頭　望）

13）入退院支援担当者会

目標：患者・家族の意向を把握し、退院支援看護師としての役割を実践できる

多職種と連携した退院支援の強化を目指し、今年度は在宅療養支援の整備を行った。

在宅療養に向けてMSWとスムーズな連携を図るために、在宅支援マニュアル「転院・退院支援における退院支援ナースのフロー図」を改訂し、在宅療養に向けた内容を充実させた。また、在宅で医療処置を必要とする患者・家族が安心して在宅療養ができるように支援するために、４つの医療者用の在宅療養指導書（在宅中心静脈栄養法、在宅酸素療法、自己調節鎮痛法、気管孔吸引処置）の作成に取り組んだ。統一した教育・指導・評価、具体的な課題の共有ができる内容であり、在宅療養スタッフとの円滑な連携に役立つ指導書が完成した。次年度も更なる連携強化に向けて取り組むと共に、DPC Ⅱ期間最終日での退院調整、退院時共同指導料２算定件数の増加を目指す。

（文責：古川　佳子）

14）患者・職員サービス担当者会

目標：浸透させよう！接遇の５原則
お互いを認め合い、感謝の気持ちを伝えることができる

職員間や、患者とのコミュニケーションを通して「見習いたい」「素敵」と感じた相手に感謝の気持ちを伝えるツールとして、サンクスカードを活用した。

接遇に関するロールプレイでは、せん妄になった患者とその家族の対応、ルールを守らない患者の対応についてディスカッションした。

「接遇大賞」を各部署から一人ずつ選出してもらい表彰したが、選出理由として、言葉遣いや相手を思いやる気配りが出来ている人が多かった。

また４年ぶりにボウリング大会が開催され、事務部と共に準備から関わった。

（文責：石橋　はるみ）

15）災害対策担当者会

目標：アクションカードの校閲とそれを用いた部署でのデモンストレーションができる
システム停止時の書類について知り部署での周知ができる

全部署にリーダー看護師、スタッフ看護師、看護補助者のアクションカードを新たに設置し、災害時に協力して対応できるよう整備した。部署の特性を考慮しつつ重要な部分は全ての署が同じようにアクションと報告ができるよう整理し、校閲した。それを用いて部署毎にデモンストレーションを行った。その上で災害訓練に参加し、発災からのフローを再確認できた。

電子カルテシステム停止時の書類については、システム障害時の対応を確認した上で、マニュアルに準じて書類を統一し各部署に配布した。

（文責：寺田　恭巳子）

３．その他

１）院外研修

（１）佐賀県が看護協会に委託した研修

＜長期研修＞

研修名	期間	人数
佐賀県保健師助産師看護師実習指導者講習会	７月～10月	３名
災害支援ナース養成研修	12月～１月	６名

（２）資格取得助成係る研修

＜認定看護管理者教育課程＞

研修名	期間	人数
ファーストレベル佐賀県看護協会	５月～12月（33日間）	８名

＜特定行為研修＞

研修名	期間	人数
救急領域	４月～３月	２名
術中麻酔管理領域	４月～３月	２名
６区分11行為（３区分７行為履修免除）	４月～８月	２名

（文責：池田　恵子）

２）臨地実習受け入れに関すること

＜看護学生の臨地実習受け入れ　７施設＞

	学校名	学科	学年	人数
1	佐賀県医療センター好生館	看護学科	１年生	40名
			２年生	40名
			３年生	42名
		助産学科		４名
2	佐賀市医師会立看護専門学校	専門課程	２～３年生	43名
		高等課程	１年生	80名
3	佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校	衛生看護専攻科	２年生	30名
				72名＊見学
4	古賀国際看護学院		３年生	５名
5	医療福祉専門学校緑生館	総合看護学科	４年生	４名
6	佐賀大学医学部	看護学科	４年生	３名
		助産コース	４年生	１名
7	西九州大学	看護科	３年生	16名
			４年生	８名
合　計				388名

看護学生の実習では、実習期間中に体調不良等で受講できなかった為、後日日程を調整し、佐賀県医療センター好生館看護学科２名、佐賀県医師会立看護専門学校１名の補習実習を行った。

＜認定看護管理者教育課程の受け入れ＞

項　　目	人数
令和５年度独立行政法人国立病院機構認定看護管理者教育課程サードレベル	１名

（文責：池田　恵子）

看護部教育

目　的：看護部理念に基づき時代の変化に対応し、専門職として自律した看護職を育成する
目　標：1．根拠に基づいた看護実践ができる　　看護実践能力　理論と実践の統合　最新の知識と技術
2．医療チームの一員として組織的役割を遂行できるように、問題解決能力、判断力を身につける
3．看護専門職として成長していくため、主体的に継続看護ができる

令和５年度 看護職員研修計画　令和５年度テーマ：自ら学び実践に活かす！

実践能力とキャリア開発に必要な力	No	研修項目	チャレンジラダーレベル	主な内容	実践能力とキャリア開発に必要な力	日　時	対象	ナースナビ申込期間	講　師	担当	場所
看護の核として必要な力	1～16	基礎看護技術I 看護技術（1）	Ⅰ	・日常生活に必要な援助「療養環境の整備」「食事」「移動」「口腔ケア」 ・診療･処置に必要な看護技術「静脈注射」「血糖測定」など	ニーズ ケア リスク	4月～6月 毎週火曜日 研修要項参照 他7月. 11月.2月	新人看護職	不要	看護師長 副看護師長（別紙）	教育担当副看護師長	研修室1A1B 多目的ホール
		スキルアップ研修①② フォローアップ研修	Ⅰ	・静脈血採血、静脈注射の技術トレーニングなど/吸引･膀胱留置カテーテル ・多重課題、優先順位の判断、急変時の対応	ニーズ ケア リスク						
	17	基礎看護技術II 口腔ケア	Ⅱ	・「口腔ケアが患者を救う」看護師が行う嚥下機能評価 ・摂食・嚥下障害患者の口腔ケア・食事介助	ニーズ ケア リスク 協働	6/27(火) 9:00～13:00	レベルⅠ認定者	4/1～5/10	摂食･嚥下障害看護認定看護師 北原真由子	教育運営委員会	研修室1A1B.2
	18	看護過程1－(1)	Ⅰ	・患者を正しく看よう（フィジカルイグザミネーションとアセスメント）	ニーズ ケア リスク 協働 意思	4/21(金) 10:00～13:00	新人看護職	新人看護師は不要	救急看護認定看護師 田中由美	教育運営委員会	多目的ホール
	19	看護過程1－(2)	Ⅰ	・データ収集の段階　クリティカルシンキング	ニーズ ケア 協働 意思	5/12(金) 10:00～13:00	レベルIをチャレンジする希望者	レベルIチャレンジ希望者 4/1～/10	看護師長 日髙典子		
	20	看護過程1－(3)	Ⅰ	・模擬事例から看護を考える	ニーズ ケア 協働 意思	7/4(火) 10:00～13:00			看護師長 野中貴子		
	21	看護過程2－(1)	Ⅰ	・OJTにおけるフィジカルイグザミネーションとアセスメント	ニーズ ケア 協働 意思	6/23～7/14 勤務時間内	レベルIをチャレンジする者	4/1～5/31	副看護師長 看護師長		各部署
	22	看護過程2－(2)	Ⅰ	・受持ち患者の看護展開をまとめ発表、今後の課題と取り組みを宣言できる ・患者の症例を共有できる	ニーズ ケア 協働 意思	10/27(金) 9:00～17:15					研修室1A1B
	23	看護過程3－(1)	Ⅱ	・臨床実践に主に活用される中範囲理論を知る（講義・グループワーク） ・看護理論の本質を読み取り、受持ち患者の看護実践と看護理論を照らし合わせる	ニーズ ケア 自己研鑽 協働 意思	11/14(火) 9:00～16:00	レベルⅡをチャレンジする者	4/1～5/31	佐賀大学 古賀明美 教授		多目的ホール
	24	看護過程3－(2)	Ⅱ	・受持ち患者の看護実践と看護理論を照らし合わせグループ毎で発表	ニーズ ケア 自己研鑽 協働 意思	2024/1/9(火) 9:00～12:00					
	25	看護過程4	Ⅱ	・看護理論を用いた受持ち患者の事例展開をまとめ発表	ニーズ ケア 役割 協働 意思	9/29(金) 9:00～17:15	レベルⅡをチャレンジする者	4/1～5/31			
	26	臨床実践 認知症ケア	Ⅰ	・認知症とせん妄の違いわかりますか? ・患者の状態を理解して患者に対応しよう！	ニーズ ケア 協働 意思	10/3(火) 10:00～13:00	新人看護職	不要	認知症看護認定看護師 林田佳奈	教育担当副看護師長	研修室1A1B
	27	退院支援	Ⅲ	・訪問看護ステーション研修	ニーズ ケア 協働 意思	9/4(月)～22(金) 8:30～17:15	レベルⅡ認定者	別途案内	佐賀県看護協会訪問看護ステーション	入退院支援担当者会	佐賀県看護協会訪問看護ステーション
	28	看護倫理1	Ⅰ	・日常的な倫理的問題 ・倫理的側面からみる看護師の責務と役割	ニーズ ケア 協働 意思	9/5(火) 10:00～13:00	新人看護職 レベルIをチャレンジする者	新人看護職は不要 レベルIをチャレンジする者は 4/1～5/31	看護師長 石橋はるみ	教育担当副看護師長	研修室1A1B
	29	看護倫理2	Ⅱ	・臨床の場面での出来事 ・基盤となる考え方4原則について理解できる	ニーズ ケア 協働 意思	9/12(火) 10:00～13:00	レベルⅠ認定者	4/1～5/31	看護師長 寺田恭巳子	教育運営委員会	
	30	看護倫理3	Ⅲ	・倫理的問題を解決するために必要な基礎知識 ・基盤となる4原則について考える 倫理カンファレンス　事例検討	ニーズ ケア 協働 意思	9/19(火) 10:00～13:00	レベルⅡ認定者	4/1～5/31	看護師長 井上真弓		
	31	静脈注射に関する知識の再確認	Ⅰ	・がん薬物療法や造影剤に関する静脈留置針挿入 ・皮下植え込み型ポート穿刺、抜去	ニーズ ケア リスク 協働	10/2(月)～12/15(金) 勤務時間	新人看護職以外 静脈注射に対応する看護職で2022年度未受講者		Nursing Skills 講師	教育運営委員会	
	32	がん薬物療法看護	Ⅱ以上	・がん薬物療法の薬剤の取扱い方（暴露予防と方法）抗がん薬の正確で安全、安楽な与薬と管理 代表的な副作用と対処法及び予防について	ニーズ ケア リスク 協働	10/10(火) 10:00～12:00	レベルI以上認定者	4/1～6/30	がん化学療法看護認定看護師 岸副登記子	化学療法委員会	研修室1A1B.2
	33	輸血療法看護		・血液製剤の管理、輸血の実際に必要な基礎知識 ・輸血の副作用と対処法について　安全、安楽な輸血と管理	ニーズ ケア リスク 協働	10/17(火) 10:00～12:00		4/1～6/30	看護師長 倉谷実希	輸血血液製剤管理委員会	
	34	放射線看護		・造影剤の安全、安楽な与薬と管理 ・副作用と対処法及び予防について	ニーズ ケア リスク 協働	10/24(火) 10:00～12:00		4/1～6/30	がん放射線療法看護認定看護師 白谷みのり	教育運営委員会	
	35	口腔ケアアドバンス	Ⅲ	・摂食・嚥下に関する知識の確認 摂食・嚥下障害看護認定看護師の院内活動に随行し、実践	ニーズ ケア リスク 協働	7月～12月 研修要項参照	レベルⅡ以上認定者	4/1～5/31	摂食･嚥下障害看護認定看護師 北原真由子		
	36	臨床実践向上研修	全	・最新の知見を活かす看護ケアシリーズ（呼吸・循環管理など）	ニーズ ケア リスク 協働	7月～11月	全職員		特定行為研修修了者		

実践能力とキャリア開発に必要な力	No	研修項目	チャレンジラダーレベル	主な内容	実践能力とキャリア開発に必要な力	日　時	対象	ナースナビ申込期間	講　師	担当	場所
看護の核として必要な力	37	*重症度、医療・看護必要度研修	全	・重症度、医療・看護必要度研修	ニーズ ケア 経営	12/1～2024/2/22	全職員（必須）		Nursing Skills講師	教育運営委員会	
	38	特定行為共通科目研修	Ⅳ以上	・特定行為研修「共通科目」の学習を行い、臨床推論力・病態判断向上のために知識を習得する	協働 役割 自己研鑽	12月～2月	希望者		全日病 S-QUE e-learning	看護部	
	39	特定行為研修		・看護師の特定行為研修	ニーズ ケア 協働 役割 自己研鑽		キャリアラダーレベルⅢ以上認定者			病院	シミュレーター室
	40	特定行為修了者研修		・特定行為研修修了者トレーニング	ニーズ ケア 協働 役割 自己研鑽		特定行為研修受講者			看護部	
	41	特定行為看護師実践報告会		・特定行為研修受講者による看護実践報告会	協働 役割 自己研鑽	12/6(水) 17:30～19:00	全職員		特定行為研修受講者（発表者）	特定行為修了者会	多目的ホール
組織的役割遂行能力	42	ストレスマネジメント1	—	・「上手な叱られ方」　Nursing Skills	役割	6/13(火) 10:00～12:00	新人看護職	不要	副看護師長 森直美	教育担当副看護師長	多目的ホール
	43	ストレスマネジメント2	—	・野外活動「自然を感じてリフレッシュ」	役割	9/16(土) 8:30～17:15	新人看護職	不要	臨床心理士 松尾真樹		北山少年自然の家
	44	プリセプター1	Ⅱ	・対人関係に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ ・人の考え方の特徴、今どきの新人看護師の特徴を学ぶ	役割	5/26(金) 14:00～17:00	令和5年度プリセプター	4/1～4/30	看護師長 松岡真紀	教育運営委員会	研修室1A1B
	45	プリセプター2	Ⅱ	・リフレクション支援「アサーティブ コミュニケーション」Nursing Skills動画	役割	9/8(金) 10:00～12:00			看護師長 福井直子		
	46	プリセプター3	Ⅱ	・新人看護師教育について　プリセプターの役割	役割	2024/3/7-8 10:00～12:00	レベルⅠ認定者で次年度プリセプター予定者	4/1～12/20	看護師長 江頭望		
	47	実地指導者コーチング	Ⅱ以上	・コーチングの基本スキル「聴く」「質問する」「承認する」	役割	11/21(火) 13:00～17:00	実地指導者	4/1～4/30	AEメディカル講師		多目的ホール
	48	実地指導者1	Ⅱ	・教え方のスキル（新人看護職研修の目的・目標、体験学習の理解）	役割	5/19(金) 10:00～13:00	レベルⅠ認定者	4/1～4/20	看護師長 有馬浩史		研修室1A1B
	49	実地指導者2	Ⅲ	・教え方のスキル（OJTにおける指導法、リフレクション・フィードバック）	役割	6/2(金) 10:00～13:00	レベルⅡ認定者	4/1～4/30	看護師長 古川佳子		
	50	臨地実習指導者	Ⅲ	・後輩を支援しよう！臨地実習指導者向け研修	役割	6/30(金) 10:00～12:00	レベルⅡ認定者 実地指導担当者以外	4/1～4/30	看護師長 江副直子	実習指導担当者会	
	51	看護補助者活用の所定研修	全	・看護補助者の役割を知り、看護補助者の活用と育成に活かす	役割	6月～1月	新規採用者 復帰者（未受講者）		Nursing Skills講師	教育運営委員会	
	52	管理者研修	Ⅳ Ⅴ	・実践で活かせる看護管理（詳細は別途案内）	役割	6月～3月 第2金曜日/毎月 15:00～16:00	看護師長 副看護師長		看護師長 副看護師長	看護部	多目的ホール
	53	専門・認定看護師実践報告会	Ⅳ	・専門・認定看護師による看護実践報告会	協働 役割	2024/3/1(金) 17:30～19:00	全職員		専門・認定看護師（発表者）	専門・認定看護師会	
	54	リーダー研修	Ⅲ	・リーダーとして求められる役割 ・リーダーシップとは何か	協働 役割	7/18(火)・21(金) 10:00～13:00	レベルⅡ認定者	4/1～5/31	看護師長 下村聡美	教育運営委員会	
	55	リーダーシップ・マネジメント研修	Ⅳ	・リーダー、リーダーシップ、マネジメントとは部署の課題解決について ・部署の問題解決について	協働 役割	9/26(火) 10:00～13:00	レベルⅢ認定者	4/1～5/31	株式会社アテンド 福成有美 氏		
	56	リーダーシップ・マネジメント実践報告会	Ⅳ	・リーダーシップ・マネジメント研修受講者による実践報告会	協働 役割	2024/2/16(金) 14:00～16:30	リーダーシップ・マネジメント受講者				
	57	ファーストレベル修了者実践報告会	Ⅳ	・「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」の学びを現場で活かす ・取り組み内容をまとめることで、自己の実践を振り返り次の実践に繋げる	協働 役割	9/21(木) 14:00～16:00	ファーストレベル研修修了者			看護部	
	58	看護実践報告会	全	・部署での一年間の取り組みについて看護実践報告会	協働 役割	2024/3/14(木) 17:30～19:00	全職員			教育運営委員会	
自己教育研究能力	59	看護研究基礎編 ①	Ⅲ	・「看護研究とは　研究テーマの見つけ方」 ・「研究方法ー質的研究・量的研究」Nursing Skills動画と実践	自己研鑽 研究	7/7(金) 9:00～12:00	レベルⅡ認定者		看護師長 花房喜代治	教育運営委員会	研修室1A1B
	60	看護研究基礎編 ②	Ⅲ	・「研究計画ー倫理的配慮と研究計画書」 ・「統計とデータ分析」「論文執筆と研究発表」Nursing Skills動画と実践	自己研鑽 研究	7/14(金) 9:00～12:00	レベルⅡ認定者 基礎編①受講者		看護師長 花房喜代治		
	61	看護研究実践編	Ⅲ以上	・研究に取り組む能力支援に関連した研修（佐賀県看護協会）	自己研鑽 研究	佐賀県看護協会教育計画参照	看護研究①②受講者		看護協会	看護協会	看護協会

＊看護補助者研修
看護補助業務１：６/19、看護補助業務２：７/10・27、看護補助業務３：９/25、看護補助業務４：11/13、看護補助業務５：2024/1/29

受講者　延べ1,326名

薬剤部

1　全体

産休・育休等でスタッフが揃わない中、医師から薬剤師へタスク・シフトの一環で「周術期薬剤管理加算」の開始や患者の痛みからの解放を目指した「術後疼痛管理チーム加算」への参加など新たな取組みを開始した飛躍の一年だった。

2　スタッフ

2023年度は薬剤師31名・助手6名の体制で活動したが育休・時短勤務が多く実質27名の薬剤師で業務をおこなった。

3　教育・研修

臨床技能、知識の習得を目的に症例検討会や最新の薬剤のエビデンスを学ぶため薬剤部勉強会を月1回行った。認定、専門薬剤師のための自己研鑽も活発に行われており18の資格種別で延べ38名の資格取得者が活動している。更に、薬学生の実務実習受入施設やがん関連の研修施設の認定も取得し学生や薬剤師の教育にも取り組んでいる。

資　格	人数
薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	5名
日本病院薬剤師会指導薬剤師	1名
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師	3名
日本医療薬学会がん専門薬剤師	3名
日本医療薬学会がん指導薬剤師	1名
日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師	2名
日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師	1名
日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士	2名
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士	6名
日本薬剤師研修センター漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	1名
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	4名
日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師	2名
日本循環器学会心不全療養指導士	1名
日本災害医学会インストラクター	1名
日本臨床試験学会GCPパスポート	1名
日本臨床試験学会GCPエキスパート	1名

受入施設
薬学生長期実務実習受入施設
日病薬「がん薬物療法認定薬剤師」研修施設
日本医療薬学会「がん専門薬剤師」研修施設

また、地域連携事業の一環として、地域の保険薬局、病院薬剤師を対象に好生館薬剤部主催の佐賀好生館薬剤師セミナーを実施し61名の参加を得た。薬学部学生の長期実務実習は5名/年受け入れた。

4　業務に関すること

（抗がん剤・レジメン）

薬剤部では患者が安全に化学療法を実施できるようレジメンの作成管理を行いホームページで保険薬局と情報共有を行っている。2023年度は新たに33件のレジメン登録を行い、全611件を管理している。がん無菌調製件数は2023年度が9,527件と順調に推移している。また、休日の抗がん剤無菌調製は薬剤部で全て実施している。2018年度から外来化学療法室にて薬剤師外来を開始し2023年度は1,694件実施しほぼ前年度実績を確保した。2020年度には連携充実加算を取得開始し2023年度は1,141件実施し前年度より42％増加した。更に2021年度から医師の業務軽減を見据えて薬剤師によるPBPMを10プロトコル運用し2023年度は201件を実施した。今後も外来患者が安心して治療を受けられるよう保険薬局薬剤師と情報共有を行っていく。

（入退院支援センターでの活動）

2023年度の面談件数は7,168件で前年度より13％増加し順調に推移している。手術等で休薬が必要な薬品を薬剤師が検知する割合は2023年度27.7％で前年度より4.5％減少し取組みの成果が出始めた。今後も薬剤部の重点業務として取り組んでいく。

（採用薬品）

医薬品購入額は高額な抗がん剤等の使用増加により年々上昇傾向にあるが、積極的な価格交渉進めると共にバイオシミラーを含む後発医薬品の採用を積極的に行っている。2023年度の採用品目数は1,098品目で後発品目数は396品目で品目ベース36.1％、金額ベース75.2％、数量ベース92.8％と医薬品供給不安で変更を余儀なくされている中非常に高い率で

推移している。更に１回投与金額が数百万円の医薬品の使用も増えており「患者都合による廃棄に係る患者負担の同意書」の運用を開始し、患者と情報共有を行いながら安全で効率的な医療を目指している。

（病棟業務、チーム医療）

2015年度より全病棟に専任の薬剤師を配置し、全病棟で入院患者に対する薬物療法の有効性・安全性の向上を目指して取り組んでいる。更に、同年７月からは病棟薬剤業務実施加算、2016年６月からは病棟業務実施加算２の算定を開始した。各診療科の回診・カンファレンスにも積極的に参加し、患者情報の収集や薬物療法の提案を行っている。2023年度の薬剤管理指導算定件数は15,221件で昨年度より６％増加している。更に患者の入院中の情報を保険薬局薬剤師と共有するために退院時指導を推進した。その結果2023年度は855件と年々増加している。

チーム医療においても糖尿病、緩和ケア、感染症、NST、外来化学療法、褥瘡、手術部、入退院支援センターのチームメンバーとして継続的な活動を行った。2017年度の抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の設置に伴い、病棟担当の薬剤師がASTの一員として、院内の抗菌薬適正使用に努めている。

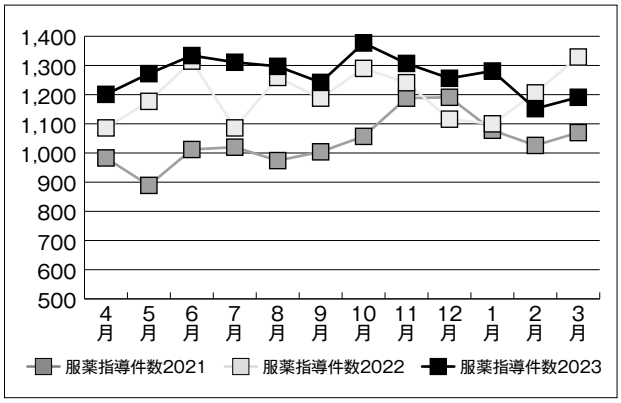
更に７月から医師から薬剤師へのタスク・シフトを目的に手術部門における医薬品の適正管理や麻薬等の無菌調製を行う「周術期薬剤管理加算」を取得し、月平均72件、年間753件実施した。また、８月からは医師・看護師・薬剤師が共同して疼痛管理を行う「術後疼痛管理チーム加算」を取得し月平均124件、年間991件実施した。

（業績）

新型コロナ流行による制限も取れ、学会発表12題、講演が６題、論文投稿が２題と大幅に増加した。個々の研究だけでなく、地域の薬剤師や県内の新人薬剤師への講演等も積極的に実施した。また、日本病院薬剤師会雑誌や佐賀県病院薬剤師会会誌への論文投稿も行い、皆が切磋琢磨して業務に取り組んでいる。

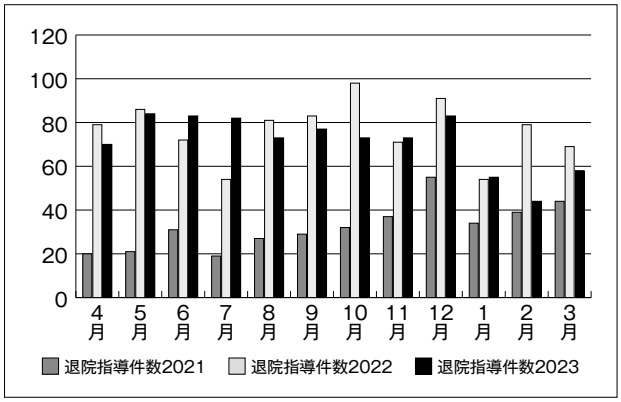
服薬指導件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	983	889	1,012	1,020	974	1,004	1,057	1,188	1,191	1,078	1,026	1,070	1,041
2022	1,086	1,177	1,315	1,086	1,259	1,188	1,290	1,241	1,116	1,100	1,206	1,329	1,200
2023	1,201	1,272	1,334	1,311	1,297	1,242	1,377	1,307	1,256	1,281	1,152	1,191	1,268



退院時指導件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	20	21	31	19	27	29	32	37	55	34	39	44	32
2022	79	86	72	54	81	83	98	71	91	54	79	69	76
2023	70	84	83	82	73	77	73	73	83	55	44	58	71



抗がん剤治療における指導

薬剤師外来（指導件数）													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	134	124	142	120	128	125	118	129	120	133	143	161	131
2022	155	156	158	149	149	126	127	143	119	132	122	171	142
2023	135	137	151	141	161	134	135	137	135	141	143	144	141

薬剤師外来（ハ算定200点）													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	61	45	58	36	38	42	45	53	53	53	47	51	49
2022	56	24	13	24	22	16	10	26	15	15	14	12	21
2023	15	14	18	11	12	16	16	13	14	19	22	10	15

薬剤師外来（連携充実加算150点）													
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	56	54	53	46	41	49	46	49	49	62	64	65	53
2022	69	67	70	66	65	58	69	61	50	69	64	95	67
2023	72	74	87	96	101	92	92	98	97	104	115	113	95

入退院支援センター関連　総実施件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2021	375	310	343	379	353	381	388	396	399	454	439	468	390
2022	503	502	565	572	464	527	536	516	509	537	560	588	532
2023	557	543	630	579	601	580	604	612	602	605	606	649	597

（文責：草葉　一友）

医療安全管理部

1　医療安全管理部の構成

1	部長・医療安全管理責任者	内藤　光三（副館長）
2	副部長・医療安全管理者	武田　雄二（呼吸器外科部長）
3	医薬品安全管理責任者	草葉　一友（薬剤部長）
4	医療機器安全管理責任者	馬場　英明（MEセンター技士長）
5	医療放射線安全管理責任者(代理)	濱田　洋（放射線部技師長）
6	医療安全担当副看護部長	伊東　美知代（副看護部長）
7	医療安全管理者、GRM（専従）	山口　雅子（看護師長）
8	医療安全管理者（専従）	梶原　早苗（副看護師長）
9	医療安全管理者（専従）	中川　香澄（副看護師長）
10	医療安全担当事務（専従）	徳島　香奈（総務課副主査）

2　2023年度の主な活動報告

(1) インシデント・アクシデント報告の集計・分析・活用

2023年度のインシデント・アクシデント報告総数は3,439件であった。例年と同様「薬剤に関する項目」が最も多く、次いで「検査に関する項目」「転倒・転落」「ドレーン・チューブに関する項目」が上位を占めていた（図１）。医師からのインシデント・アクシデント報告数は増加し、今年度は798件で全体の23.2%を占めた（図２）。全報告数の過去11年間の変化を見ると、2019年から増加傾向となり今年度は2012年の2.6倍となった（図３）。インシデント・アクシデント報告からの改善として、今年度はインスリンバイアルと専用シリンジの保管方法の見直し、入院患者の無断離院時の対応マニュアル及び転倒転落時のフローチャートの改訂、CITAを用いた休薬管理中患者一覧リストの運用を開始した。また研修医勉強会での講義、2022年度に引き続き一人双方向型ダブルチェック、手術室以外における侵襲的な治療・検査・処置前のタイムアウト実施の啓蒙等を行った。

図１　2023年度 インシデント・アクシデント報告内容別割合

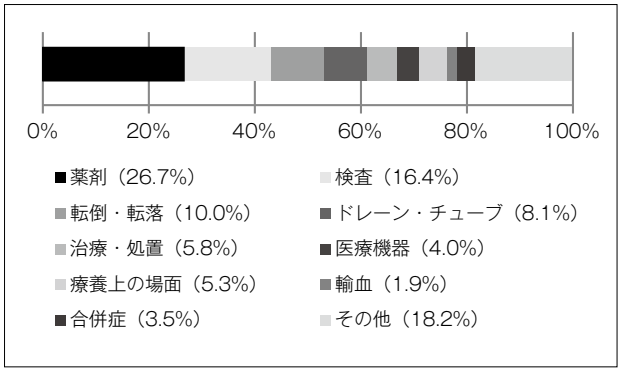


図２　2023年度 インシデント・アクシデント報告職種別割合

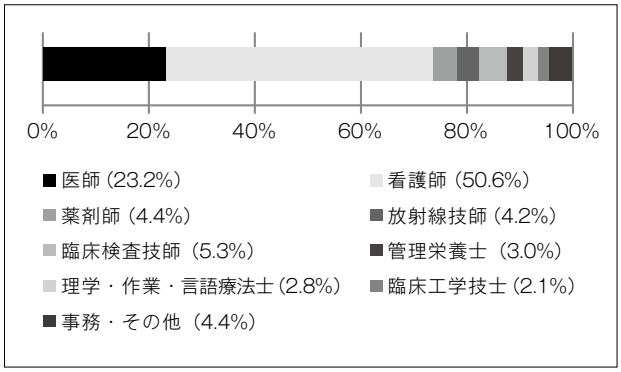
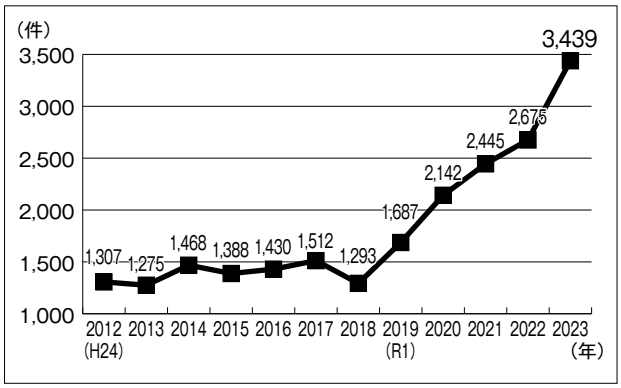


図３　インシデント・アクシデント報告数推移



(2) 医療安全管理部会議（１回／週）

提出されたインシデント・アクシデント報告、合併症報告、死亡患者の報告、医療事故報告についての分析、予防策、改善策の提案・推進を協議する。

(3) 医療安全管理委員会（１回／月）

館内の医療安全管理に関する重要事項等について審議し方針を決定する機関である。

下部組織として医療安全対策委員会、クオリティマネジメント委員会を設置している。

・医療安全対策委員会（1回／月）
医療事故の防止対策及び安全な医療の提供体制を確立するためにインシデント・アクシデント報告、医療事故報告の支援、集積、分析等を行う。

・クオリティマネジメント委員会（1回／月）
「医療行為に伴う合併症、有害事象、死亡など」を集積・分析する事により好生館における医療の質の向上を目指す。

各委員会は毎月開催し、医療安全管理委員会に報告し審議・決議を行う。

(4) セーフティマネージャー連絡会議（4回／年）
セーフティマネージャー相互の連携及び医療安全管理部との連携を図る
(5) 医療安全管理部の館内ラウンド（週1回）
(6) 医療安全ニュース発行（月1回発行）
(7) リスクマネジメントマニュアルの改訂
(8) 日本医療機能評価機構の「医療安全情報」や他施設で発生した医療事故情報、その他医療安全に関する話題をイントラネットにて全職員へ提供している。
(9) 日本医療機能評価機構の医療事故情報収集事業への報告（3ヶ月毎）
(10) RRT（院内迅速対応チーム）の24時間体制の構築、医療安全管理部へのRRT専従看護師の配置
(11) 放射線診断レポートおよび病理診断レポート既読管理システムのモニタリング
(12) 医療安全対策地域連携に関する評価の実施
加算1（相互評価）
日本赤十字社唐津赤十字病院
加算2　医療法人ひらまつ病院、医療法人静便会白石共立病院、医療法人同愛会サンテ溝上病院
(13) 医療安全推進週間（11月）
(14) 医療安全文化調査（日本医療機能評価機構 病院評価機能事業）への参加
(15) 医療の質可視化プロジェクト（日本医療機能評価機構 医療の質向上のための体制整備事業）への参加
(16) 好生館サンクスカードの運用
(17) 医療事故調査制度の報告対象事例の院内調査と報告書作成

3　教育

医療安全研修会　4回／年

第1回医療安全研修会（第194回病院マネジメント推進会）　6月1日
・『取扱いに注意が必要な医薬品について』
薬剤部長　草葉 一友
・『医療機器の安全使用について』
臨床工学技士　三好夏喜

第2回医療安全研修会　8月17日
・『酸素ボンベの取り扱いと点検／アウトレットの取り扱いと点検』　動画視聴
・『院内迅速対応チーム（RRT）活動報告
～ソボクなギモンにお答えします』
集中ケア認定看護師　梶原早苗

第3回医療安全研修会（第197回病院マネジメント推進会）　11月2日
・『放射線の安全利用について』
診療放射線技師　江口寛晃

第4回医療安全研修会（第199回病院マネジメント推進会）　1月4日
・好生館における輸血医療での取り組みと課題
①『輸血マニュアル・輸血拒否患者マニュアル等について』
血液内科　輸血部長　飯野忠史
②『輸血関連インシデントから考えるダブルチェックの重要性』
臨床検査技師　吉田剛士
・『医療安全文化調査について』
副館長／医療安全管理部部長　内藤光三

（文責：内藤　光三）

感染制御部 感染制御チーム（ICT） 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

1　2023年度スタッフ

（1）感染制御部：

医師　福岡麻美、感染管理認定看護師　三好恵美子・山口文美（2023年11月30日資格取得）、専従看護師　小野原由香、事務　永石浩子

（2）感染制御チーム（ICT）

感染制御部：福岡麻美・三好恵美子・山口文美・小野原由香・永石浩子、医師（ICD）：三溝慎次・古賀美佳・吉冨有哉、薬剤師：佐野雅彦・田中康弘・武富光希、臨床検査技師：佐野由佳理・香月万葉・田口舜・矢野智彦・泉朱里、事務：今池彰（医事課）・村岡浩文（施設課）・宮口あや（財務課）・白川翔平（総務課）（計20名）

（3）抗菌薬適正使用支援チーム（AST）

上記ICTメンバーに加え、薬剤師：小塩和人・南里本・井寺晃子・大水桃花・森永ひかり・八頭司正稔・山田敦子・佛坂章子・宮原強・水田秀貴・黒部健太郎・塩川裕美・松本夢実・永倉優子・宮原久美子・徳永晃・東山彩夏・丹羽南瑞・眞島美佳（計39名）

2　活動実績

（1）新型コロナウイルス感染症対応

2023年５月８日新型コロナウイルス感染症は新型インフルエンザ等感染症（２類相当）から５類感染症に移行し、新規感染者数の報告は全数把握から定点把握に変更となった。2023年７～８月に第９波、2024年１～３月に第10波が到来した。

①新規入院患者数（2023.4.1～2024.3.31）：265人（成人215人、小児50人）

②職員の感染者数：340名（医師49名、看護師170名、その他121名）。罹患した全職員に対して就業停止期間、復職後の注意事項について案内を行った。

③クラスター対応：館内におけるクラスター（５名以上）発生件数９件。

④職員等へのワクチン接種：（６回目）６月16日・22日・23日、（７回目）12月22日、１月５日計693名。

⑤感染対策関連

・N95マスク定量フィットテスト（25回、115名）、個人防護具着脱訓練（22回、89名）。

・５類感染症移行に伴う感染対策の見直し、マニュアル作成、改訂など。

・館内への情報発信（病院運営会議、LINE WORKS）。

⑥佐賀県との連携：佐賀県新型コロナウイルス情報共有会議出席（計４回）、2023年６月４日新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に係るシンポジウム（佐賀県主催）出席（シンポジスト）。

（2）新興感染症（一類感染症等）受入れ体制整備

①一類感染症アドバンストワークショップ開催：2023年12月17日、厚生労働行政推進調査事業振興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「一類感染症等の患者発生に備えた臨床対応及び行政との連携体制構築のための研究」主催

②令和５年度新興感染症等（マールブルグ病）を想定した訓練（参加施設：当館、鳥栖保健福祉事務所、佐賀県衛生薬業センター、佐賀県健康福祉政策課、佐賀県警本部、他）：2024年１月22日

③一類感染症チーム発足（64名：医師19名、看

護師35名、臨床工学技士２名、放射線技師２名、臨床検査技師３名、事務３名）

④一類感染症チームメンバーに対する個人防護具（full PPE）および電動ファン付き呼吸用保護具（PARP）着脱訓練実施（26回、62名）

⑤佐賀県との連携

(ｱ) 佐賀県感染症対策連携協議会委員（７回出席）

(ｲ) 佐賀県東部地区感染症の審査に関する協議会委員（月２回出席）

(ｳ) 佐賀県麻しん風しん対策推進会議委員（年１回出席）

(3) 感染対策向上加算１・指導強化加算取得と感染防止対策地域連携

①感染対策向上加算１

(ｱ) 連携施設～富士大和温泉病院、白石共立病院、小柳記念病院、サンテ溝上病院

(ｲ) 感染防止対策地域連携カンファレンス（Web開催・４回）：2023年５月30日、８月29日、11月28日、2024年２月27日

(ｳ) 感染防止対策に関する相互評価：2024年３月15日佐賀大学医学部附属病院

(ｴ) 令和５年度新興感染症等（マールブルグ病）を想定した訓練（2024年１月22日、前述）

②指導強化加算に基づく施設訪問（４施設）：2023年７月31日白石共立病院、９月４日サンテ溝上病院、10月31日富士大和温泉病院、2024年２月２日小柳記念病院

(4) 感染症診療新規コンサルテーション・インターベンション件数：1,115件、月平均93件

(5) 感染症教育（感染制御部ローテーション）：初期研修医25名（２年次24名、１年次１名）

(6) 薬剤耐性菌制御：2023年度薬剤耐性菌発生率～MRSA横ばい、ESBL産生菌・AmpC型βラクタマーゼ産生菌、*Clostridioides difficile*減少

(7) 抗菌薬適正使用推進

2023年７月よりタゾバクタム・ピペラシリン１週間以上の長期使用に対する許可制導入。2023年度タゾバクタム・ピペラシリン使用量（AUD）前年度より50%削減。

(8) ICTラウンド：週１回、年間51回

(9) 手指衛生向上のための取り組み

①手指衛生サーベイランス：2023年度１患者１日あたり手指消毒薬使用量平均23.3mL、遵守率年間平均69%

②部署別クリーンハンドキャンペーン：（実施期間）2023年８月～12月、（参加部署）23部署、（実施内容）ポスター作成、ICTによる手指衛生ラウンド等

③ブラックライトを用いた手洗い演習等

(10) 感染対策コンサルテーション：125件、月平均約10件

(11) 感染対策：今月の目標設定と結果のフィードバック

(12) サーベイランス：

①薬剤耐性菌：MRSA、ESBL産生菌、AmpC型βラクタマーゼ産生菌、薬剤耐性緑膿菌、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）、キノロン耐性大腸菌、*Clostridioides difficile*

②医療関連感染サーベイランス：

(ｱ) 集中治療室（ICU）部門：人工呼吸器関連肺炎・カテーテル関連血流感染症・尿路感染症（2021年度よりICUに業務移管）

(ｲ) 中心ライン関連血流感染：救命救急センター、血液内科病棟

(ｳ) 手術部位感染：消化器・肝胆膵外科（３ヶ月毎に結果フィードバック）

(13) マニュアルの整備・改訂

(14) 結核患者対応：

患者発生数12名（外来６名、入院６名）、排菌のある肺結核患者２名、接触者健診対象者：なし

(15) 職員の健康管理・職業感染防止対策：

①各種ワクチン接種（B型肝炎、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、子宮頸がん、インフルエンザ）　計20回

②針刺し・切創（30件）、皮膚・粘膜曝露（６件）への対応

③T-SPOT.TB検査陽性職員への対応：１名

(16) 感染症に関する情報発信：

①ICTニュース発刊：毎月１回、年12回

②電子カルテトップ画面、デジタルサイネージ、LINE WORKSなど

３　教育・研究・その他の活動

(1) 院内研修会・講演会・勉強会・講義

①院内感染対策研修会（２回）：

・2023年６月１日：(ｱ) みんなで取り組もう薬剤耐性問題、(ｲ) 今日からはじめるゴミの分別－分別を怠ると懲役刑や罰金？！－

・2023年11月２日：(ｱ) 抗菌薬適正使用の基本となる微生物検査について知っておいてほしいこと、(ｲ) 手指衛生はなぜ重要か

②新規採用職員オリエンテーション：2023年４月

３日・７日、その他中途採用者に対して11回
③部署別感染対策研修会：計８回実施（４月11日救急救命士、４月28日７階東病棟、５月22日清掃担当者、６月19日看護補助者、６月20日救命救急センター、７月６日SCU、９月15日５階西病棟、11月13日栄養管理部）
④外科カンファレンス（SSIサーベイランス報告）３回（４月26日、10月26日、2024年１月25日）
⑤看護部感染リンクナース研修会：７回
⑥院内研修医勉強会：(ｱ) 感染症診療に必要な微生物の基礎知識・血液培養陽性結果の解釈：2023年９月14日、(ｲ) 研修医に必要な抗菌薬の基礎知識：2023年９月28日
⑦好生館看護学院講義：感染管理、４コマ（５月８日、５月15日、５月22日、５月29日）

(2) 院外講演会
・COVID-19に対する経口抗ウイルス薬治療．佐賀県COVID-19セミナー．2023年７月27日（ハイブリッド形式）

(3) その他の活動
・「令和６年度佐賀県感染管理エキスパート職員研修」の企画会議（三好恵美子）2024年３月７日（佐賀県庁）

４　今後の課題と展望

感染症診療・感染管理の分野はここ数年遺伝子技術を用いた検査の普及、新しいワクチンの導入など、日進月歩で発展している。ICT・ASTの個々のメンバーの能力を伸ばすと同時にチーム力を高め、最新の感染症医療を提供できるよう努めたい。

今後も必ずや出現する新興感染症や一類感染症に備え、今年度新たに「一類感染症医療チーム」を立ち上げ、個人防護具着脱や呼吸用保護具着脱訓練を開始した。今後も地道に訓練を重ね、実動可能なチームを育成したい。引き続き行政や地域の医療機関と連携しながら、地域全体で新興感染に対応できる医療連携体制の構築を目指す必要がある。

（文責：福岡　麻美）

医療情報部

1　はじめに

更新により2020年７月に運用開始した病院情報システムは、2023年度も特段大きな障害等の発生もなく、安定的に稼働した。

そうした中で、医療情報部は、「充実した安心安全の医療を、ICTを通じて支える」という基本理念の下、情報システムの企画・運用、診療情報管理、DPC、がん登録といったいわゆる「本務」に加え、地域医療連携や医療安全の推進の支援、診療データ・経営データ分析など、病院運営に資する役割を積極的に果たすことができた。

また、2023年12月に医療情報部内にDX推進室を新たに設置し、当館における今後の医療DXを牽引していく。

2　スタッフ

医療情報部は、相部副館長の統括の下、田中医療情報部長（消化器外科部長及びDX推進室長兼務）、医療情報係４名（うち３名はDX推進室兼務）、図書診療録係12名（診療録管理担当８名及びスキャン担当４名）及びがん登録係４名で運営を行った。

3　業務実績

[情報システム関係]

1　病院情報システムの運用

下表の情報システム群からなる病院情報システムを安定的に運用するため、システム監視、マスタメンテナンス、ヘルプデスク、スケジュール管理、コンテンツ作成、ドキュメント・資産管理、システム障害時応急対応、非常時対応等を実施した。（2023年度における要望事項依頼書の処理件数：890件）

なお、上記の実施に当たっては、西鉄情報システム株式会社に業務委託（病院情報システム運用支援業務委託）を行った。

診療部門関係
電子カルテシステム 歯科電子カルテシステム 重症病棟システム 生体情報管理システム 麻酔記録管理システム 医療機器連携システム 血糖インスリン管理システム 眼科診療支援システム 分娩集中監視システム 診療文書作成/管理システム 統合診療支援プラットフォームシステム 手術映像システム 電子カルテシステム全文検索機能 診療DWHシステム クイックリファレンスツール 電子ジャーナル・文献閲覧システム AI問診システム 救急日誌システム ICU日誌システム SCU日誌システム
検体検査部門関係
臨床検査システム 血液ガス管理システム 細菌検査システム 感染症コントロールシステム 病理検査システム 輸血・血漿分画製剤管理システム 採血管準備システム
生体検査部門関係
医用画像管理システム モニタ品質管理システム DICOM画像検像システム 放射線情報管理システム 放射線読影レポートシステム 3D画像配信システム 3D医用画像ワークステーションシステム 被ばく線量管理システム 整形外科計測ソフトウェア 生理検査情報管理システム 循環器動画像ネットワークシステム 内視鏡情報管理システム
診療支援部門関係
手術部門業務支援システム 放射線治療情報管理システム 透析管理システム リハビリテーションシステム 栄養管理システム ME機器管理システム 健診システム 褥瘡管理システム 緩和ケア管理システム インシデント・アクシデントレポートシステム 器材管理システム ペースメーカー遠隔モニタリングシステム
薬剤部門関係
調剤支援システム 注射薬払出システム 薬剤管理指導業務支援システム 医薬品情報検索システム 定数配置薬請求管理アプリケーション
看護部門関係
看護情報携帯端末システム 看護管理日誌システム 看護勤務管理システム 看護キャリア開発支援システム ナースコールシステム
医事部門関係
再来受付システム 保険証認証システム

院内表示システム 診察等順番案内アプリ 自動精算システム 診療費後払いシステム DPCコーディングシステム 医事会計システム レセプトチェックシステム 施設基準管理システム 診療情報管理システム がん登録支援システム オンライン資格確認
地域医療連携部門関係
病診連携システム インターネット予約システム 地域医療連携ネットワークシステム 地域連携パスシステム 医用画像CD/DVDインポートシステム 医用画像CD/DVDパブリッシュシステム フィルムデジタイズシステム
事務部門関係
DPCベンチマークシステム 病院経営情報分析システム 経営管理支援システム 人事評価システム 人事給与システム 勤怠管理システム 人事申請承認システム 出退勤管理システム 財務会計システム 安否情報システム 文書管理システム/検査部WFシステム デジタルサイネージシステム 電子メールシステム アセット・パフォーマンス・マネジメントシステム
その他部門関係
二要素認証システム 院内ポータルシステム/利用者管理システム グループウェアシステム ワークフローシステム 会議室等予約システム eラーニングシステム データビジュアライゼーションBIシステム BIレポートプラットフォームシステム FileMaker基盤 術場カメラシステム ERカメラシステム RPAシステム

2　システム改修等対応

ユーザからの要望等を受け、システム改修等を実施した。

2023年度に実施した主なシステム改修等の項目は、次の通り。

・５階西病棟統合対応
・サイバー攻撃（ランサムウェア）対策
・院外からのBIレポートプラットフォームへのアクセス環境構築
・RPAシステム導入

3　情報セキュリティ対策

情報セキュリティをを取り巻く最新の動向を踏まえ、セキュリティ対策を実施した。

・厚生労働省「医療機関のサイバーセキュリティ対策チェックリスト（2023年度中）」で必要とされる対策を実施した。
・リモートデスクトップ接続に対するセキュリティ強化を行った。
・VPN機器の脆弱性対応のアップデートを行った。
・不審メール事案について、全職員に向け、LINE WORKSで周知し、注意喚起を行った。
・情報セキュリティの専門家を招き、全職員を対象として、下記の情報セキュリティ研修会を開催した。（2023年11月８日の病院マネジメント推進会内で実施）
　講師：徳島大学事務部長　脇元　直彦 氏
　演題：サイバーセキュリティ対策について

4　佐賀県診療情報地域連携システム協議会事務局業務

2016年度より、佐賀県診療情報地域連携システム「ピカピカリンク」の協議会事務局業務を当館が拝命し、医療情報部がその事務に当たった。

(1) 協議会の開催

2023年度は全２回の協議会を開催し、ピカピカリンクの運営について審議を行った。

第１回（2023年４月17日）
・ピカピカリンクの現状について ・令和５年度全国ID-Link研究会について ・報告事項
第２回（2023年７月19日）
・協議会設置要綱の改正について ・次回以降の協議会のオンライン併用開催と開催時間の変更について ・ピカピカリンクの現状について ・第11回全国ID-Link研究会in佐賀について ・報告事項

(2) ピカピカリンク勉強会の開催

ピカピカリンクヘルプデスク（NPO法人佐賀県CSO推進機構）と協力し、県内各地において、ピカピカリンク勉強会を開催した。

・田中病院（2023年６月14日、３名参加）
・リレーフォーライフジャパン
　（2023年９月16日、30名参加）
・好生館地域医療連携懇話会
　（2023年10月13日、250名超参加）
・第一三共株式会社Webセミナー

（2023年11月10日、30名参加）
・公益社団法人佐賀県栄養士会
（2024年１月23日、４名参加）
・好生館シンポジウム
（2024年２月７日、約63名参加）

(3) 全国ID-Link研究会の開催
第11回全国ID-Link研究会in佐賀（2023年11月25日、140名参加）を主催し、ピカピカリンクユーザや全国のID-Linkユーザと相互の情報交換や技術交流の推進を行った。

５　医療DX
デジタル技術を活用し、医療の効率や質を向上させるため、医療DXへの取組を実施した。
・下関市立市民病院へのRPAシステムの視察（2023年６月）
・RPAシステムの導入（2023年９月）
・DX推進室の設置（2023年12月）
・職員向けRPA相談会の実施（2024年２月）

[診療情報管理関係]
１　診療録監査
診療録の質向上を目的として、毎月、医師と診療情報管理士が共同で診療録監査を実施している。
各監査項目をスコア化した総合スコアの年度平均は、2020年度92.2%、2021年度91.4%、2022年度は93.3%と推移し、2023年度は91.2%と前年度から2.1ポイント減少した。
ここ数年はスコアの増減があるが、診療録共同監査が当館における診療録の質の向上に資する役割を果たしていることの現れであると考える。
監査項目の中で、インフォームドコンセントの共通登録・診察記事毎日記載の２項目については、特に質向上に注力している。

２　退院サマリー進捗管理
2013年度から実施している週１回の退院サマリー進捗管理（サマリー作成依頼、１週間毎にサマリー作成率の速報値を院内メールで各医師に報告、診療科別・医師別の進捗管理と作成率向上に向けた目標日数の提案）を、継続して行った。
退院後２週間以内サマリー作成率の年度平均は、2020年度96.3%、2021年度97.1%、2022年度は97.8%と推移してきており、2023年度は96.6%と前年度より1.2ポイントの減少であった。2024年度は科別のアナウンスをさらに強化し、作成率向上を目指す。

３　DPC
2015年度にDPC業務を業務委託からすべて職員体制に変更して９年目となった2023年度も、継続してDPC精度管理に注力した。
医師・関係部署との連携を強化し、適切なDPCコーディングに取り組み、副傷病名については、LINEWORKSにて月１回医師向けに情報発信を行った。DPC適正化委員会ではDPC精度に関する情報を詳細に発信しDPCルールの遵守に努めた。

４　NCD等の各種データ登録
従来、NCDを始めとする施設認定や専門医制度等に必須の各種データ登録は、主に各診療科に配属された医師事務作業補助者が分担していたが、2019年度より、多数の診療科について、診療録管理士（図書診療録係）による館内一元管理体制に移行となり正確なデータ入力に努めた。

[がん登録関係]
１　院内がん登録業務
当館を受診したすべてのがん患者について診断、治療、予後に関する情報を集め、整理・保管を行った。
これらの情報は、次の機関にデータ提出を行った。
①院内がん登録全国集計及びQI研究（国立がん研究センター）
・全国集計：2022年診断症例
・予後情報付き集計：2011年診断10年予後付き症例
・QI研究：2021年診断症例に対するDPCデータ
②がん登録等の推進に関する法律に基づく「全国がん登録」の届出（佐賀県）

２　全国・地域がん登録業務
佐賀県から受託している『佐賀県がん登録事業』については、2016年１月のがん登録推進法施行に伴い、「全国がん登録」として届出が義務化された。
今年度は、以下の業務及び各調査依頼に係る提出を実施した。

（全国がん登録に係る調査依頼・提出：国立がん研究センター）
・住所異動確認調査：2021年診断症例または2021年死亡診断症例に係る住所異動
※罹患データ・遡り調査について
国立がん研究センターのシステム更改の不具合

により一部システム停止。照合・集約作業の停止により提出等については、1年遅れの日程となった。

（地域がん登録）
①生存確認調査（住民票照会実施）
・7年生存確認調査（2015年診断症例）
②調査依頼対応
・届出施設からの予後調査依頼対応

（国際共同研究）
・世界的生存率解析研究（CONCORD-4）に地域がん登録・全国がん登録のがん情報の提出を行った。（2005年～2019年診断症例）

3　情報発信について
①館内のデジタルサイネージにて「がん検診受診」の啓発を行った。
②佐賀県医師会報にて「全国がん登録」の届出締切り等について案内した。（No.1198掲載）

4　今後の課題と展望

情報システムに関しては、引き続き、病院情報システムの安定的な稼働を図りつつ、病院運営や経営に関する諸課題や医療DXに対し、システム的な観点からソリューションを提案し、解決を支援していきたい。

診療情報管理業務においては、診療科の要望を踏まえつつ、NCDデータ登録の対象診療科の拡大を目指していく。さらに、データの活用に関しては、NCD Helperの抽出機能の活用や、医療情報係とも連携したデータベースの構築・二次利用にも取り組む予定である。

がん登録業務においては、構築データの正確性と利活用推進を継続し、次のような取組を推進していく。
・生存確認調査実施により信頼性を高める。
・全国がん登録業務においては、県主管課と共同し、届出施設と件数増加、正確な届出情報収集に努め、がん対策に寄与するデータ提供を拡充していく。

（文責：峰　和樹）

医療支援部

1　スタッフ

2023年度のスタッフ

職　名	氏　名
薬剤部長	草葉　一友
栄養管理長	小根森智子
検査部技師長	平野　敬之
リハビリセンター技士長	市丸　勝昭
MEセンター技士長	馬場　英明
放射線部技師長	濱田　　洋
相談支援センター	原田　健作

2　医療支援部門会議

近年、各部門とも産休・育休者の増加で定員を満たさない状況の中、会議で情報共有を行いながら積極的に新たな業務に取り組んでいる。

本会議は毎月第３水曜日に会議を行って医療支援部門の意見を集約し統括責任者会議に報告すること、及び統括責任者会議の意向を速やかに各医療支援部門に伝達することを目的にしたものである。また、医療支援部門は、チーム医療を推進することにより、医療の質の向上と医師・看護師の業務負担軽減に寄与している。

3　各部門が関わった2023年度主な診療実績

（ア）薬剤部

薬剤管理指導件数は15,221件／年で前年度を５％上回った。また抗がん剤使用患者には保険薬局と連携して安全な服薬をサポートする連携充実加算を取得しており1,141件／年実施し前年度を30％上回った。更に入退院支援センターでの活動は全診療科に広がり7,168件／年実施し前年度を12％上回った。

７月からは医師から薬剤師へのタスク・シフトを目的に周術期薬剤管理加算を算定し月平均72件、年間753件を実施した。更に、８月から多職種で患者の疼痛管理を行う術後疼痛管理チーム加算を算定開始し月平均124件、年間991件を実施した。薬剤師の欠員が多い中だったが、多方面に活躍の場を広げ充実した活動ができた。

（イ）栄養管理部

管理栄養士の欠員と急増した調理スタッフの教育に管理栄養士が全面的に関わったことにより厨房業務時間は増加したが、栄養管理に重点を置き、新しい栄養管理関連加算の算定を本格化した。早期栄養介入管理加算は昨年度282件→789件、周術期栄養管理加算は同０件→797件となり、管理栄養士が欠員の中、工夫を重ねて収益アップに繋げた。

（ウ）検査部

途中退職や育休で欠員の中、検査件数は2,416,978件と過去４年連続して増加傾向にあった。一方、外部委託検査数は41,990件と前年度に比べて5％ほど減少した。トピックスとしては、パニック値を現実的な値に変更を行うとともに報告手順も見直し、医師に直接連絡する体制とした。

（エ）リハビリテーションセンター

新患処方件数は理学・作業・言語療法合わせて7,245件（前年度比＋6％）に増加した。療法士数は増減ないが、診療報酬合計は28,956,195点（前年度比＋7％）に増加した。リハビリテーション総合計画評価料件数は3,241件／年（前年度比＋7％）に増加した。退院時リハビリテーション指導料件数は消化器外科患者に対する看護師との共同介入を開始し2,063件／年（前年度比＋26％）に増加した。

（オ）MEセンター

臨床症例（血液浄化関連・手術部関連・心臓カテーテル関連）件数は7,621件／年で、前年より1.27倍と大きく増数となった。医療機器点検件数については、前年度より1,200件程度増加（41,390件／年）し、より安全管理に努めた。今年度４月より医師の働き方改革バックアップとして鏡視下手術のカメラ保持・操作を各科外科医と連携し開始した。

（カ）放射線部

放射線治療（リニアック）装置更新のため10月後期から３月にかけて治療ができない期間があり、看護部や事務部の協力により入院患者の放射線治療を他院へ搬送して実施した。また、放射線治療停止期間を活用して救急撮影室CT装置に看護師と技師を配置し、CT予約枠の増枠を行い、CT検査待ち期間および待ち時間短縮への対策を実施した。

（キ）相談支援センター

相談件数は10,513件／年となっており、相談内容として最も多いのは転院・退院支援で、全体の

65％を占めている。退院支援に関する診療報酬は、入退院支援加算が12,768件/年、介護連携指導料が240件/年となっている。退院支援業務について病棟の退院支援看護師とタスクシェアをしており、外来から入院、退院までよりシームレスな支援が行えるよう努めている。

4　医療支援部門実習生の合同見学実習

各医療支援部門で実務実習を行っている学生が、他の医療支援部門を訪問し各部門のスタッフから業務内納の説明を受ける見学実習を実施した。

薬学部学生５名、放射線部学生２名、検査部学生５名、リハビリテーションセンター学生３名、の合計15名が見学を行い前年度より６名減少した。他の医療支援部門の職種がどのような業務を行っているのかを学び医療職としての視野を広げ多職種連携の重要性を理解できたようだ。

5　その他、医療支援部門の実績

・各部門のトピックスを毎月２部門ずつ病院運営会議で報告
・年数回、医療支援部門教育セミナーを開催
・病院機能評価認定更新に関する周知および対策検討
・各部門における専門・認定名簿の作成、更新

（文責：草葉　一友）

患者・家族総合支援部

地域医療における拠点病院として、患者とその家族に対して安全で良質な医療を提供することを目的として設置された。４部門から形成されており、地域医療機関との連携業務を担う「地域医療連携センター」、入院決定から関わり外来から入院中および転退院までを支援する「入退院支援センター」、医療費や医療扶助など療養上の相談や医療情報の提供など様々な相談に対応する「一般相談支援センター」、がん患者や家族または支援者からの相談や情報提供を行う「がん相談支援センター」などがある。各部門・センターの活動内容は別途記載されている通りであるが、定期的（１回/月）に患者・家族総合支援部センター長会議を開催し、センター間の情報共有を行っている。

今後とも更なる医療の質向上に寄与し、患者・家族に選ばれる病院となることを目標としている。

（文責：緒方　伸一）

地域医療連携センター

1　はじめに

地域医療連携センターは、事務・看護師で構成している。

・事務～予約業務・データ管理・情報提供

・看護師～医療相談・在宅支援・医療機関訪問

地域医療支援病院として地域の医療機関と連携・協力しながら良質で安全な高度医療の提供をめざしている。

2　スタッフ

職　　名	氏　　名	備　　考
センター長	緒方　伸一	医師
副看護師長	谷口恵梨子	
看護師	江頭真李香	
看護師	社頭夕佳里	
看護師	瀬戸　亜希	
事務係長	本告　信博	
副主査	岡安美佐都	
副主査	末次　　愛	
主　事	前田　綾子	
主　事	鬼木　裕子	
事　務(臨時)	川副菜穂美	
事　務(臨時)	東島　　幸	

(2023年7月1日現在)

3　活動報告

1）連携実績の把握（実績収集とデータベース化、各種統計作成）

各診療科別（各月）の紹介数・逆紹介数を毎月把握し実績を確認。

年度平均：地域医療支援病院紹介率96.8%、地域医療支援病院逆紹介率157.6%

2）『紹介患者専用窓口』業務

紹介状を持参した患者の対応、紹介元医療機関への報告（来館・入院・手術・退院・死亡）、地域医療機関との連携調整を行った。

紹介患者総数:19,118人（初･再診含む、延べ人数）

3）開放型病院　指定病床数10床

今年度延べ入院患者数：1,353人

指定病床利用率：37.0%

4）事前予約業務

インターネットによる紹介実績：3,026件

FAXによる紹介実績：3,857件

個人による紹介実績：908件

5）術前口腔ケア歯科診療

佐賀県歯科医師会と連携し、地域の歯科医師に術前患者の口腔ケア歯科診療を依頼。地域の歯科医師より診療後の報告書をFAXにて受け、連携を行った。実績：321件

6）診療情報地域連携システム参加同意書

ピカピカリンク参加同意（連携患者数）

実績：2,342件

7）外部持込CD　ウイルスチェック

連携医療機関より提供されたCD-Rのウイルスチェックを行っている。実績：5,282件

8）外部持込CD　PACS入力

連携医療機関より提供されたCD-R画像を診察時に見ることができるようにPACS入力を行っている。実績：5,206件

9）外部持込フィルム　PACS入力

連携医療機関より提供されたフィルム画像を診察時に見ることができるようにPACS入力を行っている。実績：59件

10）CD出力

連携医療機関への診療情報提供目的でのPACS出力を行っている。実績：4,663件

11）医療機関との面会

連携医療機関への訪問面会。Zoomを使用しての面会。

訪問面会件数：16件　Zoom面会件数：59件

12）地域連携に関する情報提供

医療機関からの電話又は文書による診療情報提供書等の問合せ対応。実績：883件

館内からの診療情報提供依頼､予約取得等の対応。実績：353件

連携先へ外来医師不在連絡

13）リーフレット

患者さんへかかりつけ医を持っていただくことと、先生方との連携を深め、逆紹介を推進していくための取り組み。

医療機関数：58件、総発行部数：1,040枚

14）地域連携（脳卒中、大腿骨）パスのデータ管理

地域連携（脳卒中、大腿骨）パス、カンファレンスに参加。連携病院との意見交換を行った。

脳卒中パス適用患者数：188人

大腿骨パス適用患者数：142人

15）医療相談対応（電話・窓口）

相談件数：475件

16）在宅支援（訪問看護）に関すること

訪問診療･看護の必要性について考慮､支援を行った。

退院前患者カンファレンスに参加。実績：206件

17）各種研修について

県民公開講座として､「学ぼう 活かそう 救急医療」をテーマに2023年８月20日に講座を行い、佐賀県ケーブルテレビ全11局を利用して、2023年９月９日から講座の放送を行った。

18）地域医療支援病院委員会（年２回開催）

《報告事項》令和４年度　事業実績報告・地域医療研修状況（2023年7月11日開催）

《報告事項》令和５年度　事業実績報告・地域医療研修状況（2023年４月～11月）（2024年2月6日開催）

４　今後の課題と展望

地域医療連携センターでは、ご紹介いただく初診患者に対して、事前に予約していただくよう案内している。初診紹介患者の約85％が事前予約となっている。今後は、事前予約の中のインターネット予約の件数増を図るために、インターネット予約の便利さ、使い勝手の良さを最大限案内していきたい。

看護師は、電話や窓口の医療相談、転院（前方、後方）調整、入院・外来患者の在宅支援業務を中心に行っている。院内外の他職種とシームレスな関係を構築し、安全で良質な医療提供を常に心がけている。

情報共有のツールであるピカピカリンク（診療情報地域連携システム）を利用することで､タイムリーな情報提供が行えるようになった。今後も利便性を継続的にアピールし、閲覧施設の拡充、登録患者数の増加を目指す。

退院前共同カンファレンスの開催､患者家族相談、地域との連携が年々増加している。2023年度も積極的に、対面、オンラインのカンファレンスを継続して行った。

2021年４月より各病棟に退院支援看護師を配置。支援が必要なすべての患者に安心して生活できる体制を整えるために、院外とのさらなる連携強化、退院支援看護師の育成、院内連携の充実などが今後の課題である。

（文責：本告　信博）

入退院支援センター

1　はじめに

入退院支援センターは、予定入院患者に入院決定時より多職種で関わり、安心・安全に入院生活を送ることができるように、医療面や生活面の問題解決の早期着手をめざし2018年４月に稼働を開始した。

2　スタッフ

2023年度　４月	
センター長　医師	１名(兼任)
副センター長(副看護師長) 企画経営課長	１名(兼任) １名(兼任)
看護師	９名(専任)
薬剤師	８名(交代制)
医師事務作業補助者(DA)	３名(専任)
管理栄養士	４名(交代制)
MSW	予定入院病棟 MSWが担当
事務	１名(専任)

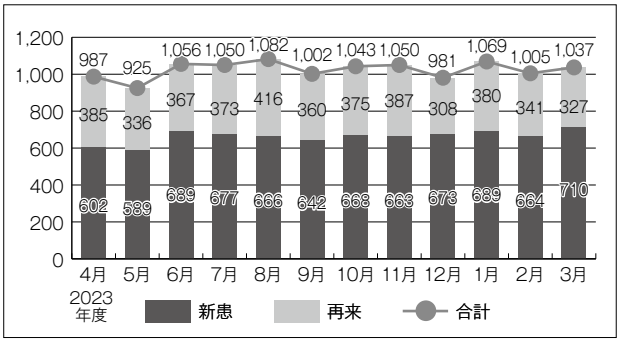
3　活動実績

開設年度は４診療科の介入から始まり、2023年度に全診療科27に加え、緩和ケア科の症状コントロール目的入院、産婦人科の通常分娩への対応を開始した。介入した予定患者総数は12,287名（新患7,932名、再来4,355名）、介入率は94.1％となった。

1）対応診療科数と介入率

	2023年									2024年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入診療科数	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
予定入院介入率(％)	93	89	94	95	93	93	96	96	93	96	97	95

2）対応患者数の推移



3）各職種の活動

各職種が専門性を活かし、それぞれが患者と関わる中で知り得た情報を共有し、連携・協働しながらPFM（Patient Flow Management）を行っている。

●看護師

2023年度は27診療科対応となった。1日あたりの患者総数、最高81名、平均51名　看護師一人あたりの対応患者最高17名、平均7.8名であった。入院が決定し、入退院支援センター介入患者を各々の看護師が受け持ち、入院までのスケジュール管理、入院生活の説明やクリニカルパスを使用した治療・検査の説明などを行っている。また入院前に患者の情報収集を行い、様々な視点からリスク評価し他職種や病棟・外来と連携することで患者が安全に安心して入院生活が送れるよう支援している。

入院前より退院後を見据えた関わりをすることで、入院決定時から退院までの一貫した看護の提供と患者サービスの充実を図っている。

（文責：森永　育美）

●医療ソーシャルワーカー（MSW）

医療ソーシャルワーカー（以下MSW）は、患者の金銭面や生活上の課題を、入院前に抽出し、

入院後の支援をスムーズに行えるよう介入を図っている。

介入方法としては、入院前スクリーニングシートの項目に該当した場合、または入退院支援センター看護師がMSWの介入を必要と判断した場合にMSWが患者・家族と面談を行っている。

2023年度の介入実績は115件で、内訳は入院前スクリーニングシート該当での介入が69件（60％）、看護師からの介入依頼が46件（40％）となっている。

入院前スクリーニングシートで最も多かった回答は、「医療費や生活費など経済的な心配がある」32件（41％）で、次いで「退院後の生活や転院などを相談したい」27件（35％）である。また、看護師からの介入依頼で最も多かった内容は、「転院相談」21件（47％）で、次いで「介護保険関連」４件（９％）である。

入院前にMSWが介入することによって、社会保障制度の提案や患者・家族の課題の把握が可能となり、入院後の早期介入やシームレスな多職種連携を行うことができていると考える。

（文責：細川　萌）

●薬剤師

薬剤師は、医療機関で薬剤を処方されている患者に介入し、お薬手帳などを参照し処方薬剤の詳細や服用状況の確認、副作用・アレルギー歴の聴取等を行っている。また、手術や検査の前に中止（休薬）が必要な薬剤について、医師の休薬指示や院内プロトコールに基づき休薬説明を行っている。サプリメントや市販薬の継続服用を希望する患者、気管支喘息および薬剤アレルギーのある患者にも介入し、多職種へ情報を提供している。

2023年度はのべ7,168件（前年度比1.13倍）に介入し、休薬対象薬剤を服用していたのは921件（前年度比1.04倍）であった。そのうち30.6％：282件（前年度32.2％：283件、前年度比0.99倍）で医師に対し休薬の提案を行った。院内プロトコール対象の診療科が増加したことで、医師への休薬に関する疑義照会件数は減少し、業務の効率化に寄与していると考えられる。休薬提案以外での介入事例としては、保険薬局への中止薬剤の抜き取り依頼やサプリメント・市販薬の中止説明などを行っている。

また、保険薬局やかかりつけ医との情報共有を目的とし、2023年２月より休薬説明を行った患者に対し「検査・手術に伴う休薬についての説明書」をお薬手帳にも貼付している。保険薬局へ情報提供を依頼した際に返信用として使用する「入院前の患者の服薬状況等に係る情報提供書」を整備し、当館ホームページに掲載している。

（文責：仲　真美恵）

●管理栄養士

管理栄養士は入院前の食事状況の確認、栄養評価、必要に応じて栄養指導を行っている。2023年度に介入したのは7,683人で、2022年度の1.2倍に増加した。栄養評価はALB値等の検査所見や食事摂取状況、体重変化等から総合的に行い、良好86.2％、やや不良8.8％、不良5.0％であった。栄養指導件数は500件と2022年度の1.1倍に増加した。指導の対象疾患はがん（38.2％）、糖尿病（31.8％）が多かった。栄養状態が不良または低下のリスクがある患者、また、食事療法が必要な基礎疾患を持つ患者に対しては、入院までの食事内容の改善方法を説明している。特に手術予定の患者については栄養状態の維持・改善、血糖コントロールを目的に積極的に介入している。

また、入院時から適切な食事提供ができるよう食事内容の調整を行っており、対応が必要だった患者は全体の45.5％、嗜好対応や栄養量の調整、食事形態の調整が多かった。個別での特別な対応が必要な場合には病棟担当管理栄養士と情報共有し、スムーズに対応できるようにしている。

（文責：川﨑　愛弓）

●医師事務作業補助者（DA）

医師事務作業補助者（以下DA）は入院が決まった患者さんに対し、医師の指示のもと入院前に必要な検査オーダーやパス・コンサルトシート作成などを行っている。DAの対応数は年間11,895名、１日平均48.8名（前年度比1.2倍）と増加している。また、検査結果で異常所見を認めた場合や術前検査の不足等に対し追加検査やコンサルトを行っており、614件の検知確認に対し追加検査など467件の代行入力を行った。素早い対応を心掛けており、患者さん及び医師の負担軽減に繋げている。

また肺血栓塞栓症予防管理料算定に必要な肺血栓塞栓予防ガイドラインチェックリストの作成状況（40歳以上全身麻酔下手術を対象）を確認しており、未作成については付箋にて医師へ作成を促している。年間2,815件に対し、作成依頼418件（依頼前作成率78.7％）、退院までの作成率99.0％を達成した。2021年7月より開始したこの

取り組みはほぼ定着している。

その他、術前検査で麻酔科との取り決めについてDA全体へ勉強会を開催した。

医師の業務負担軽減や患者さんが安心して入院・治療ができるよう今後さらにDAのスキルアップを目指していく。

（文責：長谷川　愛）

4　今後の課題と展望

2023年度は緩和ケア科の症状コントロール目的入院、産婦人科の通常分娩への対応を実施、目標達成することができた。

予定入院対応全診療科となり患者も増加していることから、今後は医療DXの推進を図り、より効果的・効率的な対応を行い、患者家族の満足が得られるようにしていきたい。

（文責：森永　育美）

相談支援センター

1　はじめに

相談支援センターとは

一般的な病気やがんにかかる医療情報の提供、医療費や医療扶助など各種公費負担制度や福祉サービスの紹介、その他の相談支援、療養上の相談などの業務について主に医療ソーシャルワーカーが担っている。

相談では、患者さんや家族のQOLの向上・自己実現・権利擁護のため、福祉、医療の視点で多職種や関係機関、地域と連携し、患者さんや家族に寄り添った支援を行う。具体的には、転院や入退院、在宅療養の支援、介護保険、難病指定、各種障害者手帳交付、傷病手当金支給申請、障害年金、パーキングパーミットの情報提供や申請支援等、医療を受けるなかで該当する制度などを、その患者のオーダーメイドとして共に考え、確かな情報提供を行う。多様性を尊重し、ケースワークからソーシャルアクションまで多岐に渡る活動を行い、地域医療、地域包括ケアシステムの推進に貢献する。

メディカル・ソーシャルワーカー（MSW）とは

医療機関に配置される多くは「社会福祉士」の国家資格を得た医療・介護・福祉の相談支援の専門職である。医療費や療養生活に関わる制度で、不明点や心配事などについて福祉の立場から広く相談に応じ、確かな情報提供や支援を行っている。

2　スタッフ

相談支援センター　スタッフ紹介

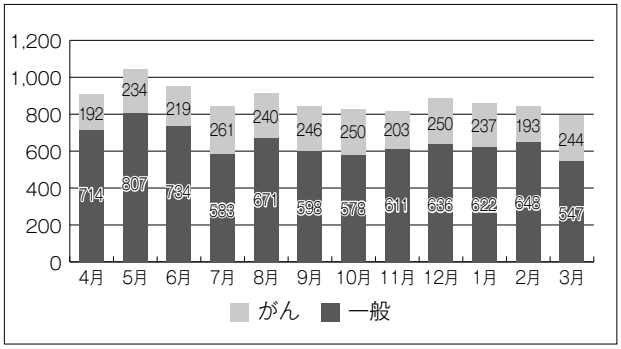
職　　名	氏　　名	配　置
相談支援センター長	松本　健一	一般・がん
副主査　MSW	原田　健作	がん
副主査　MSW	髙橋　亜衣	がん
副主査　MSW	山口　可奈	一般
副主査　MSW	岩村　昌子	一般
MSW	細川　　萌	がん
MSW	馬場　早希	一般
MSW	坂本　大輔	一般
MSW	大石喜美子	一般
事務	鮎川　映子	一般
事務	中川　智子	がん

3　活動実績

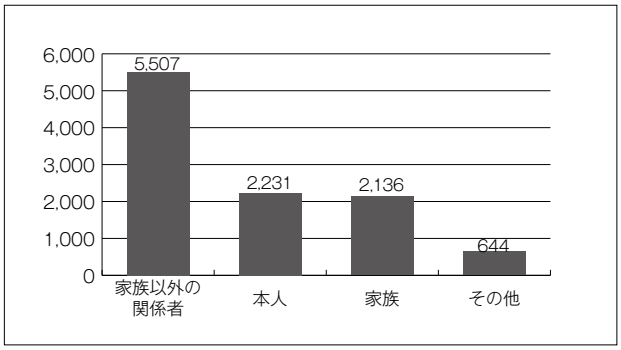
1）相談件数の推移（相談手段別）

2023年度の相談件数は、10,518件。月別の件数や相談内容の内訳は下記の通り。

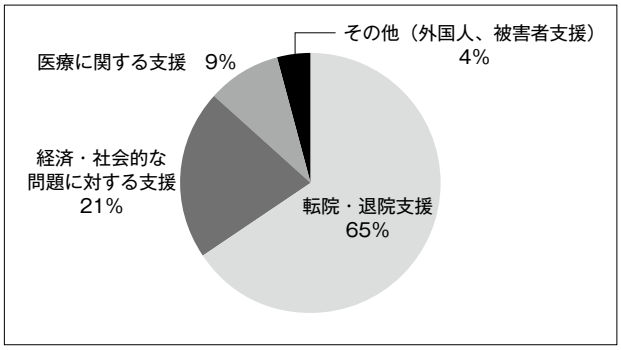
2023年度　月別相談件数



2023年度　相談者別件数



2023年度　相談内容内訳



4　一般相談支援センター

1）退院支援

メディカルソーシャルワーカー（以下MSW）と各病棟の退院支援看護師、地域医療連携センターの看護師とともにそれぞれの視点で退院支援を検討・協働しながら、患者さんが退院後も安心して療養・生活できるよう支援している。

介護支援等連携指導は2022年度の215件から2023年度は240件と増加しており、地域のケアマネージャーや相談支援専門員と連携の強化を実践している。

また地域の関係者と社会的に困っている事例などを検討する重要被支援者連絡会議を開催、顔の見える連携を行っている。

2）被害者支援

2023年度の虐待、DV、性暴力被害など危機介入で対応した件数（延べ件数）は、児童虐待92件、DVは８件でどちらも身体的虐待が一番多かった。性暴力被害相談は249件。その中で医療対応は51件だった。男性の性暴力被害の相談件数は11件で、件数自体は2022年度と変わらない。

3）外国人対応

2023年度の外国人対応（延べ件数）は315件。当館で受療した外国人患者さんの対応言語で多い順は、日本語、英語、中国語、ベトナム語、ヒンディー語、インドネシア語。診療科は外国人留学生の妊産婦の受診などで産婦人科受診が一番多く次いで救急科。国際交流協会による通訳派遣やタブレット端末の貸出を普及し、外国人患者さんの不安軽減や医療の提供の一助を担っている。

5　がん相談支援センター

がん相談支援センターは、全国にあるがん診療連携拠点病院に設置されている、がんに関する相談窓口である。特徴として、診断や治療の状況に関わらず、どんなタイミングでもがんに関する様々なことを相談することができ、患者、家族のほか、地域の方々や受診歴のない方であっても、無料で利用が出来る。また、相談内容は、相談者の同意なしに他者に知られることはなく、匿名での利用も可能となっている。

2023年度における当館のがん相談支援センターのがんに関する相談件数は2,757件となっており、その内訳の上位３項目は、転院退院支援についてが45％、介護保険についてが16％、医療費についてが５％となっている。

1）がん相談支援センターの活動

がん相談支援センターでは、がんに関する相談対応以外にも、がん患者やその家族を対象にがん患者会「なごみの会」や、アピアランスケア相談会、ハローワークや産業保健総合支援センターと連携した就労に関する相談会の開催など、患者・家族が抱える心理・社会的な課題に対応するための様々な活動を行っている。

また、館内外の医療従事者を対象に基本的な緩和ケアを学ぶための緩和ケア研修会や、地域の在宅医療を支える多職種と連携して行う緩和ケア症例検討会等を開催し、地域全体のがん医療の底上げのための活動を行っている。

（文責：松本　健一）

Medical Link Office

1　スタッフ

Medical Link Doctor：松石英城（Director）、甘利香織（医長、兼任、救急科所属）、千々岩理佐（医師、2023年４月から）、朝長礼音（医員、2023年10月から）

サポート班リーダー：劒企画経営課長（企画班）、武内広報課長（広報班）、江頭地域医療支援部看護師（リクルート班）、松石（派遣班）、甘利（研修班）

2　活動実績

医療の質を高める、身近な医療を支援する、佐賀県に医師を集める、という３つの課題を解決するために、2021年（令和３年）４月Medical Link Officeは発足した。

院内での支援は、病棟へホスピタリスト（病院総合医@日本病院会）を配置することによって、医師の働き方改革の一翼を担う一方、医療安全と職員満足度の向上に寄与し、患者満足の向上を期すことにある。 院外への支援は、公的医療機関への医師派遣をシステム化（身近な医療支援チーム@佐賀県健康福祉部医務課）することにある。県の事業に好生館が協力することで、地域の診療体制を支援する。

Medical Link Doctor（４名）の業務

院内支援医：2023年度（令和５年度）は整形外科患者入院病棟で週５日勤務、３名で分担

病棟へ配置されホスピタリストとして働く。(1)専門診療科入院患者を担当医として併診する、(2)病棟かかりつけ医として患者回診を行う、(3)コメディカルと連携して管理に携わる（医療安全、感染、薬剤、栄養）、(4)専門診療科医不在時に医師オーダ業務を代行する、などの業務に携わった。病棟を４階東以外にも広げた。

地域医療支援医：2023年度（令和５年度）は唐津市民病院きたはたで週２回勤務、２名で分担

好生館に在籍したまま、公的医療機関へ出向し、プライマリケア医として働く。

週２回の外来診療に従事し、また、好生館の医療を紹介する役割を担った。

3　教育・研究・その他の活動

［院内発表］

令和５年度好生館医学会７月例会（2023年7月20日）演題名「学びとは何か」「リスキリングは経営課題」を読む

4　今後の課題と展望

Medical Link Officeの広報活動ならびにMedical Link Doctorの採用活動。

（文責：松石　英城）

総合教育研修センター

1　総合教育研修センターの歩みについて

「総合教育研修センター」は、2016年に新設された部署です。病院支援部門の一翼を担っており、新規採用職員へのオリエンテーション、新人教育、各種の研修および生涯キャリア支援などを担ってきた教育部門を統合し、臨床研修部門、専攻医研修部門、看護師部門（看護師の特定行為研修・キャリア支援を含む）、コメディカル部門および事務部門にも各々、専任の担当者を配置しました。

病院マネジメント推進会の立案と開催、臨床研修医（医学部卒業後の１年次～２年次研修医）の募集と採用および研修修了認定、研修医のリクルートと教育（勉強会やハンズオン・セミナーの開催）、看護師の教育・支援、新規採用職員のアクティブラーニング、必須研修会のｅラーニング提供、多職種研修会の開催、各種の心肺蘇生関連講習会やハンズオンセミナーの提供、ICTを活用した病院ホームページ上の情報発信などが、主たる業務です。2019年度からは看護師の特定行為研修事業が、2021年度からは看護師のキャリアラダー研修会の提供が、新たに加わりました。

好生館に勤務する職員ひとりひとりが、当館での仕事に自信と誇りを持ち、働き方改革にも対応した勤務体系を維持しつつ、また健康面にも留意しながら、働く喜びを感じていただけるようにサポートしています。

2　活動実績

A．新規採用職員の採用時研修

2023年に新規採用された職員127名（臨床研修医含む）に対し、採用時研修会を４月１日～７日に行いました。研修では病院組織の一員であることを自覚し、専門職としての責任と義務を理解することを目標に、病院の理念、就業規則、接遇研修、情報管理、医療安全～感染予防研修に加え、働き方改革の要点を取り入れた研修プログラムを、新規採用職員全員に受講していただきました。なお、従来４月１日に実施していた臨床研修医１年次22名（基幹型12名、たすきがけ10名）に対する佐賀県研修医合同オリエンテーション（佐賀県医師会主催）は、新型コロナウイルス感染症拡大に対応し、前年はZoomによるWEBセミナーの形で開催されましたが、本年は対面式で開催され、満足度の高いものとなりました。

B．臨床研修医関連の活動実績

◇臨床研修医の募集および選考

2024年度採用予定の臨床研修医の募集定員は、前年同様で、佐賀県医療センター好生館臨床研修プログラム（基幹型）12名でした。2023年７月から８月にかけて、小論文と面接による採用試験が３回にわけて実施され、受験者総数は31名となりました。

JRMP（日本医師臨床研修マッチング協議会）によるマッチングの結果、好生館臨床研修プログラム（基幹型）には12名全員がマッチしました（フルマッチ）。この結果、基幹型では初めて、８年連続してフルマッチを達成することができました。

以下に、過去６年間の臨床研修医の募集・マッチング実績を提示します。

採用予定年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
基幹型定員（名）	11	11	12	12	12	12
受験者数（名）	35	45	34	32	36	31
マッチ者数（名）	11	11	12	12	12	12

◇レジデント委員会・臨床研修管理委員会の開催と修了式

第19期（2022年４月１日～2024年３月31日）の臨床研修医の評価と更なる臨床研修の充実を図るため、2024年３月に「レジデント委員会」および館外の指導医を招いた「臨床研修管理委員会」を開催しました。最終調整の結果、基幹型研修医11名の好生館での臨床研修修了が正式に認定されました。

レジデント委員会の開催に先立ち、研修を修了予定の研修医27名を対象に、好生館での研修システムや各診療科･部門などについてのアンケート調査（無記名）をもとに検証を行い、改善が望まれる部分に関しては改善をお願いいたしました。この場を借りて、ご協力いただいた関係者の方々にお礼を申し上げます。

2024年３月13日、樗木　等理事長から卒業する基幹型研修医11名に、好生館での臨床研修修了証が授与されました（写真１参照）。

写真１

◇学会・研究会発表、論文投稿

2023年度は、合計６演題の学会発表を行いました。臨床研修医担当の医師（甘利、藤田）の専門が救急科であることから、フィードバック機能付き高機能シミュレータを活用した心肺蘇生スキル評価と職種別特徴、医師の働き方改革に対応した研修医の時間外活動評価と自己研鑽型勉強会の意義、ERの乳児事案に関連した司法刑事への対応などについて、発表しました。

臨床研修医への教育・研修面では、上記の各種シミュレータの活用がスキル向上のみならず医療事故防止にも役立つことが示されており、当センターでも蘇生学会や救急医学会等においてシミュレーション形式の研修会の有用性を報告しました。

また､臨床研修医２名の先生方（松尾　玲沙先生、池田　奈瑚先生）には、好生館医学会で発表した演題をブラッシュアップしたものを、佐賀市医師会報の「今月の症例」欄に論文投稿していただきました。

◇レジデント勉強会開催と好生館での工夫

好生館では伝統的に、「**レジデント勉強会**」が毎月第２、第４木曜日18：30～20：00の時間帯に定期開催され、臨床研修医の教育面で大きな貢献を果たしております。本勉強会は、前半では臨床研修医の中から２名を指名してスライド発表の経験を積んでもらい、後半に館内講師によるレクチャーやハンズオン講座を行っております。発表テーマは、自分がER（救急外来）での判断や対処に苦慮した症例を中心に発表してもらっております。

館内講師による研修医向けレクチャーについては、少し工夫を加えました。感染症診療に必要な微生物の基礎知識・血液培養陽性結果の解釈（感染制御部：福岡部長）、頻脈性不整脈に出会ったら～上室性Ver.～（循環器内科：大坪医長）、どこに行っても役立つ救急外来での呼吸器疾患～新型コロナウイルス感染症も含めて～（呼吸器内科：梅口医長）、肝胆膵疾患の救急（肝胆膵内科：村山医長）、見て動いて学ぶ、骨折や脱臼の初期治療（整形外科：塚本医長）、薬剤師からみたERでの注射・処方の要点～疾患別のお薦め処方～（薬剤部：小塩・佐野薬剤師）、ERの画像診断 ～『白』と『黒』～（放射線科：相部部長）、こどもの“みかた”（内因系）（小児科：工藤医師、西村部長）などの重要テーマに加え、腹部エコー・経胸壁心エコー検査では、検査科の松本技師・山道技師らに講義とハンズオンセミナーを担当していただきました。

また、研修医のアンケート調査で要望の多かったテーマを参考に、糖尿病代謝内科の吉村部長によるPARIS 2024と糖尿病 2024、脳神経外科の松本部長による脳卒中と脳神経外科救急～最近の話題～、呼吸器外科の宮本医長による研修医時代におさえておきたい呼吸器外科疾患～胸腔ドレーン挿入など動画を中心に～、救急科の松本医長によるERを受診する薬毒物中毒の診断と治療、耳鼻咽喉科の宮崎部長による耳鼻咽喉科の救急疾患、緩和ケア科の小杉部長による緩和ケアについて学ぼう等々、更新されたレクチャーも数多く加わりました。

さらに、実技中心のレクチャーとして、無菌豚皮を用いた縫合実習＆ウエットラボ（形成外科：原田部長と林田医師、整形外科：塚本医長と若手医師）、高機能マネキンとシミュレーション動画を利用したビデオ喉頭鏡下気管挿管やリアルタイムエコーガイド下CV挿入（藤田）を提供するなど、“体で覚える”勉強会の回数を増やしています（写真２参照）。

写真２A

写真２B

現時点では、研修棟３階のシミュレータ室には実技演習関連のシミュレータが十分には整備されておらず、更新が必要なハードも複数ありますが、好生館が“魅力的な研修病院”であると認識していただけるように、今後は各種のソフトやシミュレータ類を充実させていきたいと考えています。

◇研修医のリクルート活動報告

臨床研修医のリクルートに関しては、佐賀県全体で取り組む必要があることから、佐賀県庁医務課「医療人材政策室」と緊密な連携をとりながら、佐賀県下の５つの医師臨床研修施設（佐賀大学医学部附属病院、NHO佐賀病院、NHO嬉野医療センター、唐津赤十字病院、新武雄病院）が協力して行っています。将来にわたって佐賀県に医師が一定数残ってくれるよう、佐賀県地域医療対策協議会（地対協）が設立され、2021年度より佐賀県地対協臨床研修ワーキンググループ会議を定期開催し、将来の佐賀県の医師確保の計画を行っています。佐賀大学医学部内には、「佐賀県医師育成・定着支援センター」が設置され、江村センター長の主導のもと、佐賀県から臨床研修に関するリクルート情報を発信しています。

また、病院ごとの研修プログラム説明会関連では、新型コロナウイルス感染症が継続したことからマイナビONLINE等で情報発信してきましたが、2023年５月14日に４年ぶりに対面形式のレジナビ九州合同研修プログラム説明会に参加することができました。

オンライン形式の研修プログラム説明会では、マイナビRESIDENT臨床研修プログラム説明会（2023年５月17日）およびレジナビFairオンライン2024 佐賀県限定臨床研修プログラム説明会（2024年２月18日）に参加しました。いずれの研修プログラム説明会でも現役臨床研修医が参加し、医学生とのQ&Aコーナーで回答いただきました。

上記リクルート活動では、特に現役研修医との質疑応答（総合当直の内容など）は例年好評で、対面式でもオンライン上でも研修医⇔医学生間で活発な意見交換がありました。５月17日のマイナビのWEBセミナーでは、３名の現役研修医に対するインタビューを収録した30分のZoom動画集２本が作成され、昨年同様、病院ホームページの「臨床研修Q&Aコーナー」にYouTube版として公開しました。（写真３参照）。

写真３A

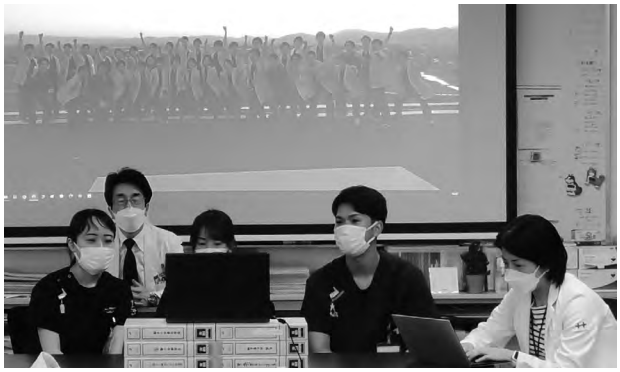


写真３B

たすきがけ研修に関しては、九州大学協力病院群の初期・後期臨床研修説明会（2023年６月11日開催）および佐賀大学教育関連病院の臨床研修プログラム説明会（2023年６月14日開催）に各々参加し、当館のたすきがけ研修プログラムの特徴について対面形式で医学生に説明しました。

インターネットを介した臨床研修病院の情報提供については、病院のホームページ上でリクルートサイトの情報をこまめに更新するとともに、PMET（医療研修推進財団）が主催する臨床研修協議会事業に参加し、2024年４月に採用予定の研修医向けに好生館の最新病院情報を入力しました。これらの情報はDVD化され、「臨床研修病院ガイドブック2023」として全国の臨床研修病院に配布されました。

◇ JCEP（卒後臨床研修評価機構）の認定施設更新

新・医師臨床研修制度が開始されてから21年が経過しました。多くの臨床研修指定病院が認定されるなかで、2007年、研修病院を客観的に評価し認定する第三者機関としてJCEP（卒後臨床研修評価機構）が設立され、2022年12月までに全国で433の施設がJCEP認定研修施設となりました。

佐賀県ではJCEPにより認定された施設はありませんでしたが、好生館は新たな研修規定や研修医必携マニュアルの作成、看護師やコメディカルによる研修医評価、研修管理委員会の複数回開催などの要件を揃えたうえでJCEPの訪問審査を受け、2020年

12月１日、佐賀県で唯一のJCEP認定研修施設となりました。

2022年９月､JCEPの更新審査（書面審査）を受け、無事合格することができました。来年度、訪問審査受審予定となっており、前回指摘の改善が望まれる点について、改善を行いながらより充実した研修制度の確立をめざしております。2024年10月、２回目の訪問調査を受審予定となっています。

◇病院見学者への対応

2023年度の病院見学者数は、計51名でした。病院見学の日程調整およびセッティングは、菊池副主査が行いました。日程決定後は、午前と午後に希望する診療科の見学をしてもらい、昼食後に総合教育研修センターの専従医師が研修プログラムを説明、研修医専用室（医局２）やER～屋上ヘリポートの案内などを行いました。

病院見学時の“印象”は、採用試験への応募やマッチング数に深く関連しているため、見学者への対応には十分に留意し、研修医ブログ（研修体験記）集の配布や実際に働いている臨床研修医との話し合いの機会をもうけるなどの工夫をしました。

新型コロナウイルス感染拡大のため病院見学を中止せざるを得ない時期がありましたが、2023年度は完全に再開し、見学希望者も増えております。

◇研修医関連のホームページの充実と研修医ブログ

2020年10月、好生館のホームページが全面的に刷新されたのに伴い、総合教育研修センターのコンテンツを大幅に修正・追加し、わかりやすいレイアウトとしました。広報課の方々の全面協力を得て、ホームページのトップページ下に『リクルートサイト』を新規追加していただき、好生館での研修を希望する研修医や医学生の皆さん達が“見たい情報”に直ぐにアクセスできるよう、階層化の工夫を施しています。また、『募集について』や『研修医最新情報』のフォルダを追加しました。前者では臨床研修医の募集要項や研修医の関連行事等の改定版を掲載し、医師の働き方改革に対応した待遇面での新規情報も追加し、医学生が閲覧しやすくしています。

現代は私たちが想像する以上に、医学生や他施設の研修医の皆さんはインターネットから、研修病院の情報を得ており、実際にマッチングに参加する際の参考にしていることがわかってきました。従来の口コミ情報に加え、上記のようなホームページの更新をこまめに行い、最新データを提示していく予定としております。

さて、好生館のホームページには研修医の“生の声”を届けるために、「研修医ブログ」のコーナーがあります。これは､他施設の｢先輩からのメッセージ｣｢研修体験記｣などに該当するものですが、最もアクセス数が多いサイトのひとつです。2014年度からは総合教育研修センターが計画的に振り分けをする形で、多くの臨床研修医の皆さんにブログを執筆いただいています。2019年度は13編、2020年度は10編、2021年度は15編、2022年度には７編、2023年度には５編の研修医ブログが掲載されました。本年は、研修医らの発案により、４名での対話式の形態のものもあり、親近感がわきやすいとのことで好評を博しています。

◇NPO法人としてのAHA準拠心肺蘇生講習会開催

心肺蘇生講習会関連では、好生館トレーニングサイト（TS）が2007年２月から、AHA（アメリカ心臓協会）より正式なトレーニングサイトとして認定されたことに伴い、AHA BLS コース（１日間)、AHA PEARS コース（１日間)、AHA ACLSコース（２日間）を定期的に研修棟で開催しています。AHA のBLS／ACLSコース受講は、医師臨床研修制度の中にあってはコア・プログラムのひとつとなっているため、好生館でローテート研修する臨床研修医の先生方には積極的にコース受講を促しています。

開催頻度は、AHA BLSコースが平均３回／月、AHA ACLSコースが平均１回／月となっています。2023年度のAHA BLS/ACLS プロバイダーは220名であり、2024年３月末の時点で受講生の累計は6,114名に達しました。

地道な活動の結果、SNSなどで好生館TSのAHA講習会は充実しているとの情報が広まり、佐賀県内だけでなく近隣の県（特に長崎県や福岡県）からも受講生の応募がありました。AHAコースは、視覚に訴えるDVD教材を活用しながら体を動かして“学ぶ楽しさ”を実感することができるうえ、正式なプロバイダーカードが発行されるため、受講生の満足度は高いようです。

好生館TSは2015年４月、佐賀県庁よりNPO法人として正式に認証され、その活動拠点を総合教育研修センターに移設しました。今後はより透明性を高めたコース運営を行うとともに、NPO法人の定款に記載しているように、研修医教育や災害医療にもウイングを広げ、また学校の養護教員、消防学校の生徒、一般市民（特に保育園の職員向け）への啓蒙活動などのミッションも実践していきたいと計画しています。

C．看護職キャリア・ラダー関連の活動実績

看護職の教育・研修に関しては、看護部教育運営委員会と連携し、さまざまな看護職員研修の企画・運営・評価を行っています。2021年度からは、「好生館看護職 キャリア・ラダー」を“導入”し、2022年度からはキャリア・ラダーの“定着”に取り組んでいます。

当館の看護職は全員、レベルⅢ以上を目指しています。2023年度はキャリア・ラダーを基盤に66項目の看護職員研修を行い、看護職は延べ1,685名、看護補助者は延べ145名が研修を受講しました。また、2023年度のキャリア・ラダー認定状況は、レベルⅠ～Ⅳにおいて認定審査を行い、合計81名の看護職が認定されました。

D．看護師の特定行為研修

当館では2019年度から看護師の特定行為研修を３区分７行為で開始し、2021年度から「術中麻酔管理領域」と「救急領域」のパッケージ研修へ移行しました。本研修は、働きながら受講できるように、e-ラーニングを活用した自己学習と、演習などの集合研修を２週間に１回行っています。集合研修の指導者は、経験豊富な医師や認定看護師、特定行為研修修了者が参加し、知識と技術、態度が習得しやすい教育体制としています。2024年３月21日に第５期生４名の研修修了式を行いました。（写真４参照）

2024年３月31日現在、特定行為研修修了生が23名となりました。次年度は、特定行為を一般病棟に拡大させるために、当館オリジナルの救急領域外科コース10区分15行為（胸腔ドレーン管理関連、腹腔ドレーン管理関連、栄養に係るカテーテル管理関連、創部ドレーン管理関連、術後疼痛管理関連の追加）を開設します。研修修了後は「診療」と「看護」の両面から支援する特定行為研修修了者としての活躍に期待します。

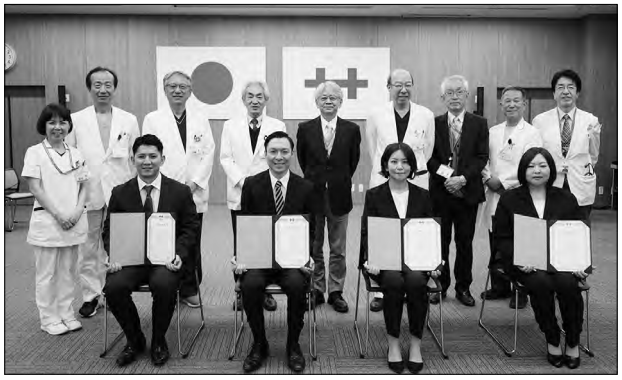


写真４

e-ラーニング：用意されたコンテンツを視聴して学習する研修方法

E．医療支援部門の教育活動実績

当館の医師・看護師を除くメディカルスタッフ、いわゆるコメディカルについての教育・研修は、ほとんど各部門ごとに行われており、部門間で情報共有を試みたり、部門を越えた教育上の協働活動はなされていないのが現状でした。

そこで、多職種が協力して患者中心のチーム医療を推進しようという観点から、2016年より３回／年の頻度で「多職種連携セミナー」を開催してきました。医師・看護師と医療支援部門（事務部、薬剤部、栄養管理部、検査部、放射線部、リハビリテーションセンター、MEセンター等）および総合教育研修センターが連携し、症例検討会を中心としたセミナーを開催しました。しかし、本セミナーでは対面式のディスカッションが中心となる形式のため、新型コロナウイルス感染症が急速に拡大した2020年度以降は、開催を見送らざるを得ませんでした。

2022年度は、草葉薬剤部長を中心にプランを詰めていただき、感染対策を徹底したうえで対面式から発表形式に開催スタイルを変更し、３年ぶりに多職種連携セミナーを開催することができ、2023年度も引き続き開催いたしました。

F．各種の学生実習の把握

2022年度より、医学生に加え、看護学生、薬学部生、コメディカルの学生実習の学生実習計画の情報を得て、好生館で実習する学生の全体的な把握を行っています。新型コロナウイルス感染症拡大のため、受け入れを一部もしくは全面的に制限した時期もございましたが、2023年度は、新型コロナウイルス感染拡大前と同等規模まで回復しております。

G．病院マネジメント推進会について

病院マネジメント推進会は、総合教育研修センターが中心となって企画・立案し、毎月第１木曜日の夕方に好生館職員に向けて提供している、歴史のある研修会です。

病院マネジメント推進会の目的は、「病院の全職員が病院の運営に関する情報や問題意識を共有し、安全で効率的かつ質の高い医療を提供し、全職員が健全な病院経営への参加意識を高めていくこと」にあります。この目的を達成するために、毎月、核となるテーマを決めて、計画的に開催しています。

特に、急性期病院として「医療安全管理研修会」と「院内感染予防対策研修会」および「保険診療研修会」は、各々、年に最低２回は全職員が受講することが義務付けられている必須のテーマであるた

め、特に力を入れて企画しています。また最近では、「災害対策研修会」や「情報セキュリティ研修会」なども大部分の職員が受講すべき研修会とされているため、職員の皆さんの負担を増やさないよう、開催月の分散化を図っています。

構成メンバーとしては、総合教育研修センターの他に、看護部、医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、災害対策委員会、NST小委員会、検査部、薬剤部、放射線部、医療コミュニケーション推進委員会、医療情報部、事務部等があり、各部門から1名ずつ担当者を選出し、毎年テーマを決めて運営しています。

病院業務では、時間外診療や救急患者への対応また夜間勤務などシフト制もあるため、上記の時間帯に受講できない職員も数多くいらっしゃいます。このため、重要なテーマの講演会はビデオ録画し、後日「DVD研修」や「e-ラーニング」にて追加講習が受けられるように配慮しています。

（実績は次頁参照）

H. 館外関係者への総合的な実習・研修サポートおよび病院見学案内

臨床研修医の活動実績と一部重複しますが、ここ数年、アーリー・エクスポージャー（早期体験学習）の観点から、中学校や専門学校など様々なルートから様々な学生さんの病院見学依頼が増えております。

また、2019年度から佐賀大学医学部医学科学生の臨床実習を10月下旬から翌年の9月上旬まで受け入れております。医学部5年生～6年生が4週間ずつ（2週間ずつ2クール）、好生館の各診療科に臨床実習のため回ってくるため、総合教育研修センターでは実習開始前に、佐賀大学医学部附属病院に赴き、上記の臨床実習中の要点について説明しています。さらに自治医科大学医学生の中核病院実習（毎年5月と8月）も担当しています。

上記の見学・実習については、総合教育研修センターが窓口となり、各人の希望を取り入れつつ各診療科や部門に依頼して病院での見学実習をサポートしています。見学後のアンケートでは「職場の雰囲気が明るく、館内の職員の人たちが笑顔で挨拶してくれて、好生館が好きになった」等のコメントが数多く寄せられました。この場を借りて、ご協力いただいた関係者の方々に深謝いたします。

（文責：菊池　智美、渡邉 さおり、岡野　奈々、橋口 佳奈子、田久保 衣友未、北村 たか子、金原　直美、草葉　一友、甘利　香織、藤田　尚宏、内藤　光三）

国際交流室

国際交流室は、好生館が国際的に開かれた病院であるための活動を行うことを目的として、2015年7月より活動を開始した。国際派遣医療活動を支援する種々の団体で活動経験を有するチームで構成されている。職員の海外研修や国際医療支援活動に加え、当館を受診される外国人患者のサポート、他国の研修生や見学者の受け入れ体制の調整などに関わっている。現段階では国際交流室として人員的な問題で活発な活動を行えていないが、2019年7月に外国人受け入れ医療機関（JMIP）として認定を受け、2021年に1回目の認定更新が完了、2025年に2回目の更新を控えているところである。今後も好生館が国際的に開かれた病院であることを目指し地道な活動を継続していく。

（文責：内藤　光三）

2023年度　病院マネジメント推進会　実績

開催日	回	テーマ		演者	出席者数
4月13日	第192回	保険診療研修会	保険診療の理解のために	佐賀県指導監査専門医 林田　潔 先生	81
5月11日	第193回	メンタルヘルス／ハラスメント研修会	快適な職場環境づくりのためのアサーティブコミュニケーションについて	佐賀産業保健総合支援センター メンタルヘルス促進員 家永 佐知子 先生	30
6月1日	第194回	医療安全研修会	取扱いに注意が必要な医薬品について	薬剤部　部長 （医薬品安全管理責任者） 草葉 一友	86
			医療機器の安全使用について	MEセンター 臨床工学技士 三好 夏喜	
		院内感染対策研修会	みんなで取り組もう薬剤耐性問題	検査部 細菌検査室 副主任技師　佐野 由佳理 薬剤部／ICT・AST　田中 康弘	
			今日からはじめるゴミの分別 －分別を怠ると懲役刑や罰金？！－	感染制御部 専従看護師 山口 文美	
7月6日	第195回	災害対策研修会	好生館ＢＣＰ＆災害対策マニュアル改訂の要点と、本年度災害訓練の概要説明	災害対策室 室長　小山　敬	77
			トルコ大地震被害に対する国際緊急援助隊医療チームの支援に参加して	整形外科 医長　塚本 伸章	
9月14日	第196回	保険診療研修会	保険診療の理解のために	医事課　中原 大貴	88
		認知症ケア研修会	変わります！ 認知症ケア加算	外来副看護師長／ 認知症看護認定看護師　林田 佳奈	
11月2日	第197回	院内感染対策研修会	抗菌薬適正使用の基本となる微生物検査について知っておいてほしいこと	感染制御部 部長　福岡 麻美	80
			手指衛生はなぜ重要か	感染制御部 看護師　山口 文美	
		医療安全研修会	放射線の安全利用について	放射線部 副主任技師　江口 寛晃	
11月8日	—	情報セキュリティ研修会×特別企画セミナー	サイバーセキュリティ対策について	徳島大学病院 事務部長 脇元 直彦	81
12月7日	第198回	医療コミュニケーション研修会	こうすればもっと良くなる好生館 ～入院患者満足度アンケート調査の自由意見から見えたヒント～	外来看護師長　石橋 はるみ	58
		褥瘡研修会	今一度　床ずれについて考えてみよう。 ～床ずれをつくらない療養環境を提供しましょう～	皮膚・排泄ケア認定看護師 俵　麻美	
1月4日	第199回	医療安全研修会	好生館における輸血医療での取り組みと課題		48
			輸血マニュアル・輸血拒否患者マニュアル等について	血液内科 輸血部長　飯野 忠史	
			輸血関連インシデントから考えるダブルチェックの重要性	検査部 輸血・検査技師 吉田 剛士	
			医療安全文化調査について	副館長／ 医療安全管理部長　内藤 光三	
2月1日	第200回	医療倫理研修会	医療倫理とは－症例から学べること－	佐賀大学医学部 地域医療科学教育研究センター 准教授　坂本 麻衣子	39

※出席者数にはDVD研修およびｅラーニングによる受講者は含めていない

総合教育研修センター

総合臨床研究所

1　臨床試験推進部

①スタッフ

大座 紀子、草葉 一友、宮﨑 敦、溝口 佳代、三井 浩子、志波 三紀子、小島 友理子、只野 茉莉子、三浦 裕美子

②活動実績

(1) 治験審査委員会、倫理審査委員会、利益相反審査委員会における業務
(2) 治験のリモート体制の強化、必須文書の電子化に関する体制整備
(3) スタッフ教育、勉強会の開催
(4) 治験・臨床研究・特定臨床研究に係る規則・要綱・手順書・申請様式の改正
(5) 特定臨床研究事務局業務

③今後の課題と展望

(1) プロセス管理の充実
(2) 依頼者に選定される実施体制整備とアピール
(3) 医師主導治験を受け入れ可能とする体制整備
(4) 臨床研究CRCの教育・人材育成

（文責：草葉　一友）

2　疾患病態研究部

①スタッフ

泉 秀樹

②活動実績

研究部が立ち上がって9年目となる2023年度において、泉部長は、がん幹細胞の非対称分裂の研究に従事し、その成果を英文総説と和文総説として発表した。

③教育・研究・その他の活動

泉部長は、がん細胞の上皮間葉転換（Epithelial-mesenchymal transition（EMT））時において、非対称分裂が起こっていることを発見し、その研究に勤しんだ。

④今後の課題と展望

ようやく毎年、論文を発表できる体制が整ったので、佐賀大学との連携大学院として、研究・教育指導ができればと考えている。さらに他大学との共同研究を推進し、将来的には、好生館臨床各科との共同研究ができればと考えている。

（文責：泉　秀樹）

3　疾患ゲノム研究部

①スタッフ

安波 道郎、柏田 知美

②活動実績

(1) がんゲノム医療関係：がん遺伝子パネル検査を36件実施した。
(2) がん遺伝子パネル検査の二次的所見として3例に遺伝性腫瘍原因遺伝子変異を検出した。そのうち、*ATM*遺伝子変異の1例について末梢血DNAの塩基配列を明らかにして、同変異が生殖系列変異であることを確認した。
(3) 家族性地中海熱疑いの患者3例について、原因遺伝子である*MEFV*遺伝子の塩基配列解析を行って診断を確定した。
(4) JSPS科学研究費・基盤研究（C）「フッ化ピリミジン系抗腫瘍薬による薬剤性下痢予測バイオマーカーによる治療最適化戦略（代表：安波道郎、分担：柏田知美）」が採択され、3年計画の研究課題を開始した。本年度は新規バイオマーカーとして期待される、便中マイクロRNAと腸内細菌叢に由来する細胞外小胞の調製法を検討した。
(5) 2023年度好生館医科研究助成課題「腸内細菌と腸管上皮細胞の相互作用を反映するバイオマーカーの探索」として、腸管上皮細胞のモデルとなる細胞株Caco-2の単層培養におけるバリア機能を評価する実験系を構築した。

③その他の活動

長崎大学熱帯医学研究所・臨床感染症学分野（有吉紅也教授）との共同研究として本邦肺炎の臨床疫学研究、およびベトナムの小児感染症コホート研究など、アジア・アフリカの健康問題に関する研究に継続して参加した。

④今後の課題と展望

(1) 遺伝性疾患の診療に不可欠である遺伝カウンセリングを行う体制を整備する。
(2) がんゲノム医療連携病院としてがんゲノム医療を継続し、遺伝性腫瘍原因遺伝子変異等の二次的所見に的確に対応する。
(3) 患者由来の疾患モデルの技術を導入して、病態解明や治療法開発につながる知見を得る。

（文責：安波　道郎）

4　疾患疫学研究部

①スタッフ

光石 はつみ、宮地 宏昭（～９月）、
吉井 雅恵（10月～）、原田 智可、吉武 真由子

②活動実績

当館で診断、治療および情報収集した諸疾患の患者データベースを構築・整理し、疫学的手法を用いて研究することで疾患の原因究明、予防、治療法を解明していくことを目的としている。現在は、がん登録部門のみの稼働状況である。

また、佐賀県から受託している「佐賀県がん登録事業」について、佐賀県がん登録室として業務を行った。

(1) 院内がん登録業務（収集分析したデータは本年報内で別途報告）
(2) 全国・地域がん登録業務（佐賀県から受託している『佐賀県がん登録事業』）
(3) 国際共同研究への参加
世界的生存率解析研究（CONCORD-4）に全国･地域がん登録のがん情報の提出を行った。

③今後の課題と展望

蓄積されたがん登録情報を用い、集計・分析結果を院内診療および県がん対策に寄与していく。また学術集会等での発表などに取り組んでいきたい。

（文責：光石　はつみ）

5　臨床統計支援部

①スタッフ

貞嶋　栄司

②活動実績

(1) 臨床研究の支援（統計解析に関する相談34件、統計解析依頼17件、論文掲載９編）
(2) 医療統計ゼミナールの開催（全９回：基礎編５回、実践編４回、受講者13名）
(3) 医療統計コンサルティングの受託（外部施設からの受託５件、論文掲載５編）

③その他の活動

(1) 佐賀県国民健康保険団体連合会における保健事業・支援評価委員会の支援
（佐賀県在住の後期高齢者の栄養状態に関する疫学調査）
(2) 急性血便におけるコホート研究
（CODE BLUE-J 試験）
(3) メタアナリシスの方法論に関する研究（大阪大学大学院医学研究科情報統合医学講座医学統計学　服部聡教授との共同研究）

④今後の課題と展望

(1) 医学研究者とともに共同研究に参画し、質の高い医学研究を実施する。
・日本臨床細胞学会班研究課題：胆汁細胞診における新たな診断区分の確立に向けた試み
・膵臓学会：High grade PanIN の組織学的診断基準の策定
(2) 医療統計ゼミナールを通じて、統計学の基礎的な教育を行う。
(3) 他施設の研究者とも積極的に共同研究を実施し、研究成果を発信する。

（文責：貞嶋　栄司）

・2023年度 外部資金研究課題・研究助成

研究事業名・研究助成等			課題名・助成内容
科学研究費助成事業	科学研究費補助金	基盤研究（B）（一般）	石灰化病変拡張時に冠動脈血管に生じる三次元ひずみ分布の実験的計測法開発の試み（分担：挽地）
			寝たきり度を用いた院内転倒予測モデルの多様な医療機関での検証と実用化に関する研究（分担：甘利）
	学術研究助成基金助成金	基盤研究（C）（一般）	ワゴンホイール効果を応用したパーキンソン病等による思考緩慢の測定法開発と臨床応用（代表：江里口）
			腎細胞癌のparadox:腎周囲脂肪と腎癌の関連についての検討（代表：柏木）
			フッ化ピリミジン系抗腫瘍薬による薬剤性下痢予測バイオマーカーによる治療最適化戦略（代表：安波 分担：柏田）
			COPD患者における骨格筋-腸内細菌叢連関と新規リハビリテーション介入手法の開発（分担：貞松）
		若手研究	問題飲酒者に対するオンライン版飲酒日記の効果検証と新たなプログラムの開発（代表：角南）
奨学寄附金	中外製薬		消化器癌手術後の機能障害をIoTを活用し遠隔でのサポートにより克服するための研究（田中）
	大鵬薬品工業		IOTを利用した胃癌術後の機能障害を克服するための研究（田中）
	科研製薬		消化器癌術後障害克服（田中）
	協和キリン		パーキンソンニズムを呈する患者の初期診断困難例の特徴への研究助成（江里口）
共同研究	根本杏林堂		循環動態シミュレーターを用いた造影CT検査における至適ヨード量の推定式の開発

外部資金合計　￥5,501,000

・2023年度 治験課題名一覧

【新規７件】

Randomized Controlled Study of a Local Osteo-Enhancement Procedure（LOEP）to Prevent Secondary Hip Fractures in Osteoporotic Women Undergoing Treatment of Index Hip Fractures （HP掲載略名）初発大腿骨近位部骨折を呈し治療を受ける骨粗鬆症女性患者を対象としたAG11040106Rの医療機器治験
（原題）ROSY-D: Roll Over StudY for Patients Who Have Completed a Previous Oncology Study with Durvalumab and Are Judged by the Investigator to Clinically Benefit From Continued Treatment （邦題）ROSY-D：デュルバルマブの臨床試験（親試験）完了後、治験責任（分担）医師から治療継続により臨床的ベネフィットが得られると判断された患者を対象としたロールオーバー試験
中等度から重度の活動性を有する潰瘍性大腸炎患者を対象に、導入療法としてABX464を１日１回投与した際の有効性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、多施設共同、第Ⅲ相試験
中等度から重度の活動性を有する潰瘍性大腸炎患者を対象に、維持療法としてABX464 25mg又は50mgを１日１回投与した際の長期有効性及び安全性を評価するランダム化、二重盲検、多施設共同、第Ⅲ相試験
HERMES：全身性の炎症を伴う左室駆出率が軽度低下又は保たれた心不全患者を対象とした、罹病率及び死亡率に対するプラセボと比較したziltivekimabの効果
A Multicentre, Randomised, Double-Blind, Parallel-Group Placebo-Controlled, Phase 3, Efficacy and Safety Study of Tezepelumab in 5 to < 12 Year Old Children with Severe Uncontrolled Asthma（HORIZON） コントロール不良の重症喘息を有する５歳以上12歳未満の小児患者を対象としてテゼペルマブの有効性及び安全性を評価する多施設共同、ランダム化、二重盲検、並行群間、プラセボ対照、第Ⅲ相試験（HORIZON）
心血管系リスクが高い患者を対象に主要心血管系イベントの抑制におけるMK-0616の有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、無作為化、プラセボ対照試験

【継続12件】

切除不能なステージⅣ尿路上皮癌患者を対象とする一次療法としてのMEDI4736単剤療法及びtremelimumabとの併用療法を標準治療の化学療法と比較する第Ⅲ相国際多施設共同無作為化非盲検比較対照試験
A Long-Term Extension Study to Evaluate the Safety of Filgotinib in Subjects with Crohn's Disease クローン病患者を対象にFilgotinibの安全性を評価する長期継続投与試験
A Long-Term Extension Study to Evaluate the Safety of Filgotinib in Subjects with Ulcerative Colitis 潰瘍性大腸炎患者を対象にFilgotinibの安全性を評価する長期継続投与試験
進行肝細胞癌患者に対する一次治療におけるデュルバルマムとトレメリムマブの第Ⅲ相無作為化非盲検多施設共同試験
進行性肝細胞癌患者に対する一次治療としてのレンバチニブ(E7080/MK-7902)とペムブロリズマブ(MK-3475)の併用療法の安全性及び有効性をレンバチニブ単独療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験
外科的切除術又は局所焼灼療法後に画像評価により完全奏効を示した肝細胞癌患者を対象に術後補助療法としてのMK-3475の安全性及び有効性をプラセボと比較する二重盲検第Ⅲ相試験
An Open-Label, Multi-Center, Global Study to Evaluate Long Term Safety and Efficacy in Patients Who are Receiving or Who Previously Received Durvalumab in Other Protocols (WAVE) 他の治験でデュルバルマブの投与を受けている又は投与歴のある患者を対象に長期の安全性及び有効性を評価する、非盲検、多施設、国際共同試験(WAVE)
根治不能／非転移性の肝細胞癌患者を対象にレンバチニブ(E7080/MK-7902)、ペムブロリズマブ(MK-3475)及び肝動脈化学塞栓療法(TACE)の併用療法の有効性及び安全性を TACE 単独療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験(LEAP-012)
KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG 510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験
非糖尿病性慢性腎臓病患者における腎疾患の進行に関して、標準治療に上乗せしたfinerenoneの有効性及び安全性を検討する多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較、第Ⅲ相試験
閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行患者を対象としたNS-304のプラセボ対照二重盲検比較試験(後期第Ⅱ相)
リポ蛋白(a)高値のアテローム動脈硬化性心血管疾患患者における主要な心血管イベントに対するolpasiranの影響を評価する二重盲検、ランダム化、プラセボ対照、多施設共同試験

・支援中の臨床研究

臨床腫瘍科：８試験、消化器外科：２試験、乳腺外科：３試験、泌尿器科：１試験

事務部

1　総括

事務部は、事務部長、副事務部長、理事室、総務課、財務課、施設課、医事課、企画経営課、広報課、計画推進室、好生館看護学院事務室の体制で業務を推進した。

2023年度においては、第４期中期目標期間中の２年目に当たる令和５年度計画を着実に実行に移すために、法人全体の意思決定機関である理事会、法人の業務運営及び法人経営に関する重要事項の審議機関である統括責任者会議、また病院の適正な運営等を推進する病院運営会議、経営戦略会議や医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、防火・防災管理委員会、臨床研修管理委員会、各中央診療部の委員会等を所掌しながら理事長、館長、副館長の指導の下、法人運営、病院運営の基礎を担うべく活動した。

2　2023年度の特記事項

１）組織改正について

①2023年４月１日付で、以下の改正を行った。

・「教育センター」の名称を「総合教育研修センター」に変更した。

・「救命救急センター」に、新たに「災害対策室」を設置した。

②2023年７月１日付で、以下の改正を行った。

・「中央診療部」に、新たに「呼吸器センター」と「糖尿病センター」を設置した。

・「５階西北病棟」と「５階西南病棟」を統合し、「５階西病棟」とした。

③2023年12月１日付で、「医療情報部」に新たに「DX推進室」を設置した。

２）新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症は、2023年５月８日に感染症法上の位置付けが５類感染症に移行したが終息の気配は見られず、当館は、県内唯一の第一種感染症指定医療機関としてその役割を果たした。

具体的には、５類感染症移行後において、佐賀県のプロジェクトMで当館にフェーズ毎に課せられた病床（フェーズ１：８床、フェーズ２～４：15床）を確保して対応した。

また、2023年10月以降においては、佐賀県から当館に段階毎に課せられた病床（段階Ⅰ：８床、段階Ⅱ：11床、段階Ⅲ：17床）を確保して対応した。

2024年１月29日には、これまでの新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえ、県の要請に基づき43床を上限として病床を確保する等を内容とした、感染症法に基づく医療措置協定を県と締結した。

３）人材育成について

若手事務職員に当館の事務全般を幅広く理解してもらうことを目的に、「事務職員職務能力向上研修会」を2022年度に引き続き実施した。

2023年度　事務職員職務能力向上研修会実績

開催日	演題名	発表者
5月26日（金）	こんなことをしています理事室	理事室 係長 小出　有紀
7月27日（木）	医療機器担当業務について	財務課契約係 主事 糸山　智之
	財務係の仕事	財務課財務係 副主査 西山　知之
9月28日（木）	好生館看護学院について	事務室 副主査 野中 万里子
	子どもを進学させるお金の話～奨学金を賢く活用する方法～	事務室 主査 坂井 光太郎

3　収支の状況

（単位：百万円）

科　目	2023決算	2022決算	増減額
経常収益（A）	20,093	20,383	▲ 290
医業収益	17,561	17,055	506
看護師養成所収益	68	60	8
運営費負担金	1,260	1,382	▲ 122
その他	1,204	1,886	▲ 682
経常費用（B）	19,910	19,782	128
医業費用	18,502	18,263	239
看護師養成所費用	204	225	▲ 21
一般管理費	905	938	▲ 33
財務費用	299	356	▲ 57
経常利益（A－B）	183	601	▲ 418
臨時損益（C）	▲ 19	1	▲ 20
当期純利益（A－B＋C）	164	602	▲ 438

1　経常収益の主な増減要因（全体で2.9億円の減）

(1) 入院収益　2.9億円の増
(2) 外来収益　2.3億円の増
(3) 補助金等収益　6.1億円の減

2　経常費用の主な増減要因（全体で1.3億円の増）

(1) 人件費に関するもの　4.7億円の減
(2) 材料費に関するもの　4.9億円の増
(3) その他経費に関するもの　1.9億円の増

4　患者数

区　分	2023年度（A）	2022年度（B）	増減（A－B）
延入院患者数	143,082人	141,695人	1,387人
延外来患者数	172,287人	173,296人	▲ 1,009人

（文責：岡田　俊）

総務課

1　組織の見直し等

2023年度は、６課・２室体制を維持し体制変更は実施しなかった。

2　職員数

2023年度の職員数は、前年度と比較して35名の増員となった。主な要因は、給食の一部を直営化したことで人員不足が続いていた栄養管理部の調理師及び栄養士（下表の「医療技術職」に計上）の増、診療報酬上の加算対象となるナースエイド（下表の「事務その他」に計上）の増となっている。職種別での主な増減は以下のとおりである。

＜医師＞
- 医師　　４名減
  （正１名増、期限付２名減、臨時３名減）

＜看護師＞
- 看護師　２名増
  （正２名減、期限付２名増、臨時３名増、再雇用１名減）

＜医療技術職＞
- 調理師　６名増（正）
- 栄養士　２名増（正３名増、期限付１名減）
- 薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士　各１名減（正）

＜事務その他＞
- 一般事務職　２名増
  （正２名増、期限付１名増、臨時１名減）
- 事務補助員、医師事務作業補助者　各３名増（臨時）
- ナースエイド　23名増（臨時）

職員数の状況（2024年３月31日現在）

区分	役員			一般職員			期限付職員			臨時職員			再雇用職員			合計		
	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減	前年度末	当年度末	増減
医師	3	3	0	109	110	1	3	1	△2	85	82	△3	0	0	0	200	196	△4
看護師	1	1	0	549	547	△2	12	14	2	8	11	3	8	7	△1	578	580	2
医療技術職	0	0	0	177	183	6	11	11	0	12	11	△1	0	1	1	200	206	6
事務その他	1	1	0	101	104	3	28	28	0	162	189	27	2	3	1	294	325	31
合計	5	5	0	936	944	8	54	54	0	267	293	26	10	11	1	1,272	1,307	35

3　職員採用

正職員採用のため、以下のとおり2023年度中途採用試験を５回、2024年度に向けた職員採用試験を16回実施した。

2023年度中途採用試験

区　分	実 施 日	応募人数	合格者数
栄養士・調理師	2023. 4.20	1名	1名
	2023.12. 7	1名	1名
事務職員（医療情報系専従職員）	2023. 5.29	1名	1名
	2023. 6. 5	1名	
	2023. 6. 8	1名	

2024年度採用試験

区　分	実 施 日	応募人数	合格者数
看護師・助産師	2023. 6.17	19名	19名
	2023. 7. 8	41名	33名
薬剤師	2023. 4.26	1名	1名
	2023.10.19	2名	2名
臨床検査技師	2023.10. 5	7名	2名
理学療法士	2023.12. 1	9名	3名
言語聴覚士	2023.10.19	2名	1名
管理栄養士	2023.10.18	11名	1名
調理師	2023. 9.20	2名	2名
	2024. 1.30	1名	1名
	2024. 2.28	1名	0名
事務職員	2023. 7. 1 2023. 7.15	16名	2名
	2024. 1.21 2024. 1.27	3名	1名
電気技師	2024. 2.29	1名	1名
医療ソーシャルワーカー	2023.12.13	3名	1名
	2024. 3.19	2名	1名

4　職員の給与等

給料表毎の2024年４月１日現在の平均年齢及び2023年度職員一人当たり年間人件費は、以下のとおりであった。前年度と比較すると、新型コロナウイルス感染症が第５類感染症へ移行したため、当感染症に対処する業務に対して支給を行っていた手当を廃止するなど、特例で実施していた処遇改善措置の見直しを行ったため、全体的に人件費が減少している。

給料表	平均年齢	平均人件費
特定職給料表	62歳	24,956,465円
医療職給料表（一）	46歳	20,725,412円
医療職給料表（二）	35歳	6,096,857円
医療職給料表（三）	36歳	6,395,043円
研究職給料表	51歳	8,937,109円
再雇用医療職給料表	61歳	4,531,001円
再雇用看護職給料表	62歳	4,560,314円
再雇用事務職給料表	62歳	4,490,652円
技能労務職給料表	33歳	4,262,042円
事務職給料表	39歳	5,611,590円
特定期限付給料表	63歳	10,292,087円

5　職員の健康管理

定期健康診断及び人間ドックの対象者は1,282名であり、受診者は定期健康診断（2023年５月11日、12日、15日、16日、17日実施）955名、人間ドック272名、計1,227名（受診率95.70％）だった。

また、院内感染防止等のためHBs血液検査、結核菌検査、麻疹抗体検査、流行性耳下腺炎検査、水痘検査及びインフルエンザ予防接種を実施した。

さらに、メンタルヘルス対策及び過重労働対策等のために行っているストレスチェックは、７月３日～14日に実施し、対象者1,194名のうち1,183名（99.07％）が回答した。

（文責：堤　由起子）

財務課

1　スタッフ

財務課は、財務係、契約係、及び研究係の３係で構成されており、課長１名、課長補佐１名、係長２名及び課員13名の計17名（欠員１名）が配置されている。

2　活動実績

財務係では、精度の高い日次の業務を正確な月次決算及び年度決算作成へとつなげ、その数字を経営戦略会議や病院運営会議において月次の収支状況（年度の収支予測を含む）として報告し、病院の経営状況を周知することで職員の経営意識の向上を図った。また、未収債権管理については、関連部署と定期的な打ち合わせを実施し、他部署との連携強化を図ることで未収金の発生防止に努め、残念ながら発生してしまった未収金については、文書督促等を実施するとともに、回収困難と判断した場合には回収業務を委託するなど未収金回収に注力した。

契約係では、医療機器、医薬品、診療材料、消耗品及び給食材料等の購入契約業務のほか、治験に係る契約業務を実施するとともに、ベンチマーク等による価格交渉を行い、費用の削減に努めた。また、契約の適性を期するために設置された契約監視委員会での意見を真摯に受け止めることにより、適正に契約事務を進めることが出来た。

研究係では、研究費不正使用防止部門会議及び研究不正行為防止部門会議を開催し、研究費の適正な使用及び研究の適正な実施に努めた。

3　今後の課題と展望

今後は、医療DXを踏まえた事務部門の業務効率化を推進することや、他課（他部門）との連携を強化することにより、効率的かつ精度の高い事務処理を実施することとする。

決算業務については、毎年のことではあるが、日々正確な業務を遂行することにより、正確な月次決算を実施し、引いては正確な年度決算作成が出来るようにする。

また、月次決算をもとに精度の高い年度の収支予測を行い、病院経営の戦略を検討する場へ適正な資料を提供する。

係毎の課題と展望であるが、財務係は、係員個々の企業会計制度についての更なるスキルアップ、契約係は、適正な契約事務の遂行と費用節減対策の強化、研究係は、好生館の適正な研究活動を推進するための運営及び管理責任体制を確立することを目標とする。

（文責：緒方　貢）

医事課

1　はじめに

医事課は、医事係・入院係・外来係・地域医療連携係の４係で構成されている。

課長１名、課長補佐１名、係長３名、副主査９名、課員17名の31名を配置している。

2023年度は、施設基準について下記のとおり17件の新規申請を行った。（療養・就労両立支援指導料の注３に規定する相談支援加算、周術期薬剤管理加算、腹腔鏡下肝切除（内視鏡手術支援機器を用いる場合）、救命救急入院料３　告示注９　早期栄養介入加算、特定集中治療室管理料４、短期滞在手術等基本料１、看護職員夜間配置加算（看護職員夜間16対１配置加算１）、術後疼痛管理チーム加算、脳卒中ケアユニット入院医療管理料　告示注４早期栄養介入管理加算、認知症ケア加算１、腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、急性期看護補助体制加算２　25対１急性期看護補助体制加算（看護補助者５割以上）、緩和ケア病棟入院料２、急性期看護補助体制加算２　25対１急性期看護補助体制加算（看護補助者５割未満）、ウイルス・細菌核酸多項目同時検出、全身MRI撮影加算）

入院料加算については、認知症ケアチーム、術後疼痛管理チームを設置することが出来、認知症ケア加算１及び術後疼痛管理チーム加算を取得することが出来た。診療報酬改定年度ではなかったが、病院収益に貢献する施設基準を多数取得することが出来た。

なお、2023年５月に新型コロナウイルスは５類に移行したが、コロナに罹患している患者の受入については、従前と変わらず積極的に行った。

2　診療実績

（１）実診療額

【入院】

区　分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実診療額	10,241,884千円	11,411,472千円	12,976,732千円	13,270,339千円
一人当たり診療額	83,820円	85,079円	91,582円	92,746円

【外来】

区　分	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実診療額	3,664,738千円	3,925,862千円	4,023,836千円	4,233,483千円
一人当たり診療額	23,312円	23,141円	23,219円	24,572円

2023年度の実診療額は入院132億円（対前年比２億９千万円の増）、外来42億３千万円（対前年比２億９百万円の増）となっており、入院、外来合わせて５億３百万の増となった。

また、１人当たりの入院診療額は92,746円（対前年度比1,164円の増）、外来診療額は、24,572円（対前年度比1,353円の増）となっており、ほぼ毎年最高額を更新している。

主な要因としては、外来診療は抗がん剤治療等による高額薬剤使用により収入増となり、入院診療は新入院患者数増により増収となった。

※令和５年度佐賀県新型コロナウイルス感染症対応医療提供体制強化緊急補助金（病床確保支援事業）での収入は109,148千円となり、前年度の684,348千円より575,200千円の減収となった。

（２）査定・精度管理

区分	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2022年−2023年
入院	6,556千点	4,537千点	4,702千点	4,881千点	4,677千点	204千点
	0.59%	0.47%	0.42%	0.39%	0.36%	0.03%
外来	1,335千点	1,282千点	1,301千点	1,357千点	1,253千点	104千点
	0.36%	0.36%	0.34%	0.34%	0.30%	0.04%

査定については、上記表のとおりである。

入院は、2023年度4,677千点（0.36％）であり、前年度に比べて204千点（0.30％）減少している。外来は、2023年度1,253千点（0.30％）であり、2022年度に比べて104千点（0.04％）といずれも減少している。いずれも年度目標の0.38％をクリアした。

外来レセプトは、2023年10月よりAIレセプトチェッカーを導入し、点検業務を行っている。入院レセプトについても2024年度中の構築及び導入を目指している。

入院は、「救命救急入院料や救急医療管理加算」、外来は「CT/MRI、各検査項目の連月施行」などが多く査定された。今後も主治医との連携を図りながら、各個人のスキルアップを図り、チェック体制を

強化し査定減に向けた取り組みを引き続き行っていきたい。

また、2023年度も、前年度に引き続き外部委託会社による手術精度調査（入院）を行い、請求漏れ対策及び職員研修を実施した。

（３）人間ドック

人間ドックについては、2019年度1,269件、2020年度1,042件、2021年度1,153件、2022年度1,341件、2023年度1,246件で、対前年度比件95件減となっている。

なお、当館の健診関連事業（人間ドック１日・２日コース、脳ドック、心臓ドック、健康診断）については2024年度以降段階的に縮小し、2027年３月末日をもって閉鎖する方針となった。

３　今後の目標

入院については、診療報酬請求のチェック体制を強化し、請求もれや査定率の減少など、スキルアップを図りながら、さらなる増収を目指す。

外来については、委託契約であるが、業務能力の向上・サービス強化などに取り組み、請求精度を高め、未収対策にも日々取り組む。

働き方改革としては、AIレセプトチェッカーの本格稼働や業務のRPA化による業務負担軽減に引き続き取り組んでいきたい。

（文責：田中　佳奈）

企画経営課

1　スタッフ

課長:今池 彰（12月異動/前課長:劔 彰彦)、係長:近藤 徹弥、副主査：川上 麻耶、溝口 真美、課員：梶原 由美子の５名で構成されている。

2　活動実績

①経営戦略策定等業務

隔週火曜日に開催される経営戦略会議の運営および経営改善に向けた提案を実施した。また、毎月第四火曜日に開催される病院運営会議へのトピックス提供や会議運営のための各種コーディネートを実施した。さらに、各診療科・部門と理事長・館長・事務部長ヒアリングの計画作成と実施支援を行った。

②年度計画案の策定

2024年度計画案を策定し、事務部内で検討の後、統括責任者会議、理事会を経て、2024年3月佐賀県に報告された。

③年度実績の自己評価案の策定

2022年度計画の実績について自己評価案を取り纏め、評価委員会へ佐賀県を通じて提出した。また、2023年度計画の進捗状況は、各部門の月次状況報告を管理し、遅れがみられる部門には対策案などの提示等による是正依頼および支援を行った。

④ベンチマークシステムの活用

DPC特定病院群へ昇格するためにベンチマークシステム等を活用し、その要件である「診療密度」「外保連指数」「手術件数」等のモニタリングを継続した。また改善が必要な項目については、関連部署へのデータ提供等による是正依頼および支援を行った。

⑤QI（Quality Indicator）プロジェクト等

日本病院会、CQI研究会が実施しているQIプロジェクトに引き続き参加した。また、好生館のQI窓口として、データ収集・登録業務、及び分析結果のフィードバックを行った。

⑥経営改善に関する各種業務

経営及び業務改善に向けて、以下のような業務を実施した。

・令和５年度健全経営化：効率的な増収に向けて
・令和４年度診療科データ（４月－３月）
・2023年度黒字化に向けて
・DPC期間Ⅱ最終日退院徹底のお願い
・DPC期間Ⅱ適合状況分析データ
・3.0T　MRI装置入替時の減収シミュレーション
・リハビリテーションセンター増員
・DPC基礎係数関連
・神経内分泌腫瘍（ルタテラ）の導入について
・令和５年度診療科業績評価データ概況
・査定状況、小児科入院、脳神経内科注射分析
・肝胆膵内科分析と対策
・乳腺外科閉科に伴う影響について
・急性期充実体制加算の影響について

3　教育・研究・その他の活動

下記セミナーに参加した。

・今池・近藤、第２回病院機能改善支援セミナー
　２月20日、東京都

4　今後の課題と展望

①経営改革

安定的な健全経営体質を作るために、病院経営コンサルタントの効果的な活用、Afterコロナ健全経営に向けた戦略策定を予定している。

②継続的な質改善

医療・経営の質改善継続のために、医療クオリティ・マネージャー研修を受講する。

③経営マインドを持った事務職員の育成

病院経営を俯瞰できるマネジメント力を兼ね備えた事務職員の育成を行う。

（文責：今池　彰）

施設課

2023年度の施設の修繕、及び、維持保全の状況は以下のとおりである。

1　2023年度の主な工事について

２階、３階及び階段他LED化工事	69,850,000円
無停電電源装置蓄電池更新工事	58,740,000円
空冷チラーオーバーホール	15,202,000円

2　修繕費の推移について

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
修繕件数(件)	100	123	108	167
修繕金額(円)	18,272,045	28,775,519	40,097,980	77,736,756

3　委託費の推移について

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
委託件数(件)	83	91	96	83
委託金額(円)	259,496,383	258,310,742	262,747,178	271,177,737

主な業務委託費については、次のとおりである。

・中央監視業務委託

2020年度： 46,582,800円　2021年度： 47,163,600円　2022年度： 47,744,400円　2023年度： 49,123,800円

・清掃業務委託

2020年度：102,537,600円　2021年度：103,624,400円　2022年度：103,382,290円　2023年度：103,578,640円

・産業廃棄物処理委託

2020年度： 28,467,942円　2021年度： 34,303,838円　2022年度： 38,630,193円　2023年度： 40,646,596円

4　光熱水費の推移について

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
電気料金(円)	163,600,315	176,605,580	232,254,909	209,274,766
(月平均(円))	(13,633,359)	(14,717,132)	(19,354,576)	(17,439,564)
水道料金(円)	15,415,928	16,573,931	19,069,809	15,866,697
(月平均(円))	(1,284,660)	(1,381,161)	(1,589,151)	(1,322,225)
下水道料金(円)	20,858,807	22,695,528	25,279,563	21,204,358
(月平均(円))	(1,738,233)	(1,891,294)	(2,106,630)	(1,767,030)
ガス料金(円)	43,435,044	60,192,732	73,081,151	56,431,534
(月平均(円))	(3,619,587)	(5,016,061)	(6,090,096)	(4,702,628)
A重油(円)	16,315,200	25,880,800	27,548,720	29,247,680
(月平均(円))	(1,359,600)	(2,156,733)	(2,295,727)	(2,437,307)
合　計(円)	259,625,294	301,948,571	377,234,152	332,025,035
(月平均(円))	(21,635,441)	(25,162,381)	(31,436,179)	(27,668,753)

(文責：村岡　浩文)

理事室

1 スタッフ

理事室長１名、係長１名及び担当２名の計４名が配置されている。

2 活動実績

（1）理事会の開催

法人運営の重要事項を審議・決定するため、地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館理事会規程に基づき理事会を開催した。

■ 理事会開催状況

会議名称	開催日	主な議案等
第１回理事会	2023.5.8	職員給与規程改正(案)について
第２回理事会	2023.6.28	令和４年度決算(案)について、会計規程改正(案)について、理事会規程改定(案)について
第３回理事会	2023.9.29	職員給与規程改正(案)について、理事長の業績手当について
第４回理事会	2023.12.4	職員給与規程改正(案)について、臨時職員就業規則改正(案)について
第５回理事会	2024.2.13	職員給与改定について
第６回理事会	2024.3.27	令和６年度計画(案)について、診療科の廃止について、職員就業規則等改正(案)について、職員給与規程等改正(案)について、令和５年度ナースエイド処遇改善一時金の支給に関する規程の制定について

（2）統括責任者会議の開催

法人の業務運営や経営に関する重要事項の検討や情報の共有を行うため、毎週火曜日に常勤理事及び理事長特別補佐を構成員とする統括責任者会議を開催した。

■ 構成員

樗木理事長
佐藤副理事長（館長）
前理事（副館長）
内藤理事（副館長）
原理事（事務部長）
宮地理事（看護部長）
相部理事長特別補佐（副館長）
緒方理事長特別補佐（統括診療部長）
田中理事長特別補佐（統括診療部長）
草葉理事長特別補佐（薬剤部長）

■ 事務局

岡田副事務部長
碇副事務部長
釜田理事室長

（3）内部統制の推進

法人に対する社会的信頼を確保し法人の使命と社会的責任を果たすため、内部統制が有効に機能しているか検討・評価するために、内部統制に関するモニタリング調査を実施。

また、法人の規程・規則等の整備に当たり、法や他の規程・規則等と適合したものとなるよう各部署への支援を行った。

（4）好生館シンポジウムの開催

例年、地域医療の中心的役割を担う病院として医療従事者のための幅広い知識習得を目的としたシンポジウムを開催。2023年度は「『医療DX令和ビジョン2030』がもたらす医療提供体制」をテーマに2024年２月７日（水）に佐賀市医師会立看護専門学校にて開催した。

■ プログラム

・開会挨拶
地方独立行政法人佐賀県医療センター
好生館　樗木　等 理事長

・特別講演Ⅰ
『医療DX令和ビジョン2030実現に向けたベンダーの取り組み』
一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会　電子カルテ委員会
委員長　岡田　靖士 先生

・特別講演Ⅱ
『医療DXに対する日本医師会の考えと取組み』
公益社団法人日本医師会常任理事
今村　英仁 先生

・閉会挨拶
佐賀県医療センター好生館
佐藤　清治 館長

（文責：釜田　里奈）

計画推進室

1　スタッフ

計画推進室は、室長以下、係長２名及び担当２名の計５名が配置されている。

2　活動実績

◎増築整備事業

第３期（前期）中期目標における、「好生館が担うべき役割を達成するための病院施設の在り方について早急に検討すること」を受け、2021年度に増築基本計画をとりまとめ基本設計を行い、2022年度は、第４期（現）中期目標により引き続き事業推進を図り、実施設計に着手、工事発注事務に必要な書類の作成及び手続きなどを行った。

2023年度には工事発注を行い、増築棟建設予定地にある構造物の機能移転のための工事(準備工事)に着手した。

3　今後の課題と展望

2024年度には準備工事が完了する予定となっており、同年度中に増築棟建設予定地構造物の解体、増築棟建設着手を計画している。

事業については、2027年３月を完了時期としており、安全を最優先に、遅滞なく進捗を図っていきたい。

また、原油価格の高値での推移、建築資材や労務費等の高騰、為替相場の不安定傾向など、増築整備事業の支障となる可能性のある事象が継続して見られることから、推移を慎重に見極めていく必要がある。

（文責：佐藤　隆一）

広報課

1 スタッフ

課長１名、課長補佐１名（2024年１月31日まで）、広報係員１名、マーケティング係員１名に加え、臨時職員２名（2024年１月31日まで）乃至３名（2024年２月１日から）の体制で業務に当たった。

2 活動報告

（１）連携医療機関訪問活動

診療科・部門の2023年度目標に「初診紹介患者数」に関するものを掲げた診療科を中心に、その達成を支援する観点から、診療部長同行訪問を実施した。（訪問実施診療科 10診療科・訪問した連携医療機関 111施設（延べ））

また、連携医療機関に対し、適時・適切に情報提供を行う観点から、広報課職員による単独訪問を実施した。（182施設）

（２）県民公開講座（一般・がん）

県民に正確な健康情報を提供することを目的として、県民公開講座（一般・がん）を開催した。

・一般県民公開講座

「学ぼう　活かそう　救急医療」

2023年８月20日（日）

CATV放送 2023年９月９日（土）から１週間

・がん県民公開講座

「がん調査隊が行く！～肺がんの傾向と対策～」

サガテレビ放送 2024年３月２日（土）

（３）地域医療連携懇談会

連携医療機関の皆様に当館の情報を正確に伝え、信頼を獲得し、もって初診紹介患者の増加につなげることを目的として、地域医療連携懇談会を開催した。

・講演「地域医療の未来を拓く－好生館の挑戦」

「膵癌の集学的治療」（肝内・肝外）

「肺癌治療のこれから」（呼内・呼外）

「持続可能な腎代替療法を目指して」（腎内）

「TAVIから広がる弁膜症治療」（心外）

・新任診療部長紹介

・インターネット予約サービス「カルナコネクト」のご案内

・意見交換会

（４）リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023佐賀

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023佐賀」が2023年９月16日（土）に開催され、当館もチームで参加した。

（５）がん教育総合支援事業

がんを正しく理解し、生命や命の大切さについて考え、適切な態度と行動をとることができる児童・生徒の育成を目指して、佐賀県教育委員会において展開されている「がん教育総合支援事業」に協力し、「がんの専門家」をがん教育推進校に派遣して、講演を実施した。（派遣先 ９施設・受講者数 1,509名）

（６）広報誌等の発行

県民や連携医療機関の皆様に向けて当館の情報を発信するため、各種の広報誌等を発行した。

・広報誌

「好生館だより」（計9,000部／４回）

・パンフレット

「診療のご案内」（1,300部）

「診療センター紹介」（計10,800部／９センター）

「病院案内」（2,800部）

「三つ折りリーフレット」（2,000部）

・学術誌等

医学雑誌「好生」（1,100部）

「年報2022」（500部）

（７）ホームページの運用

県民や連携医療機関の皆様に向けて当館の情報を発信するため、ホームページを運用した。

・主な取組事項

お問い合わせフォームの更新

パブリッシュシステムの構築

「お産をお考えの方へ」ページの新設

多言語版サイトの新設

（８）SNSの運用

県民や連携医療機関の皆様に向けて当館の情報を発信するため、SNS（LINE公式アカウント、Instagram、YouTube、Facebook及びX）を運用した。

（９）各種チラシのデザイン

館内外でのイベント等の周知に用いられる各種チラシについて、部署の依頼を受け、デザインを行った。

（10）その他

その他、次の活動を行った。

・マスコミ対応
・デジタルサイネージの運用
・歴史コーナーの運用
・がんセンター事務局業務対応　他

3　今後の課題と展望

引き続き、「集患･増患」という広報課のミッションの達成に向け、「好生館の価値を連携医療機関の先生方・県民の皆さんに正確にお伝えし、好生館のファンになっていただく」という戦略に基づき、様々なメディアやツールを有効に活用しつつ、広報施策を展開していく。

（文責：長友　篤志）

第32回　好生館医学会

年間テーマ	医療DX（２）～慣習・思考・常識の学び直し～		
開催日	演題名	発表者・講師（敬称略）	参加者
７月例会（７月20日）	今年度のテーマについて ～アンラーンをラーンする！？～	好生館医学会準備委員会 委員長　田中　聡也	75名
	「学びとは何か」「リスキリングは経営課題」を読む	Medical Link Office Director 松石　英城	
	好生館の資産管理について	事務部財務課契約係　主事 藤松　祐輔	
	絞扼性腸閉塞に続発した非閉塞性腸間膜虚血の一例	総合教育研修センター 臨床研修医　吉良　裕希	
９月例会（９月21日）	医事課のDX	事務部医事課　課長補佐 馬場　俊彰	55名
	情報共有の医療DX化に向けて	相談支援センター 医療ソーシャルワーカー　細川　萌	
	バイタルサイン入力遅延時間短縮を目指したICT利活用推進～新型コロナウイルス感染症５類移行後からの行動変容	看護部　副看護師長 横田　友美	
	V-A ECMO駆動中にHITを発症した１例	総合教育研修センター 臨床研修医　中村　和樹	
特別講演（10月20日）	医療DX－地域医療連携システムの現在と未来－	株式会社エスイーシー 取締役　伊藤　龍史	56名
11月例会（11月16日）	放射線画像診断におけるAI技術の活用	放射線部　診療放射線技師 中野　竣	51名
	栄養管理部 業務改善への取り組み	栄養管理部　管理栄養士 中島美保子	
	免疫染色での原発巣、組織型検索のための新たな抗体の模索	病理部　医長　増田　正憲	
	ACTH単独欠損症により切迫心停止に至った一例	総合教育研修センター 臨床研修医　山本　雪子	
１月例会（１月18日）	リハビリテーション分野における医療DXの紹介と当院での取り組み	リハビリテーションセンター 理学療法士　細岡　秀生	47名
	医療機器操作におけるMEセンターの取り組み ～動画マニュアル作成に向けて～	MEセンター　副主任臨床工学技士 園　悠輔	
	急性下部消化管出血の予後予測スコア ～他施設共同研究 CODE BLUE J-Study～	消化器内科　医長　冨永　直之	
	倉庫内で意識障害を生じた55歳女性 ～状況聴取が診断に寄与した一例～	総合教育研修センター 臨床研修医　宇野　純加	

開催日	演題名		発表者・講師（敬称略）	参加者
総会 （3月16日）	研修を終えるにあたって		総合教育研修センター 臨床研修医　池田　奈瑚	62名
	高難度急性胆嚢炎手術に関する術前因子の検討 －安全な腹腔鏡下胆嚢摘出手術を施行するために－		消化器外科　医長　江川　紀幸	
	カルナコネクトの推進の取組と成果 ～WIN-WIN-WINの結果をもたらすために～		事務部広報課マーケティング係 主事　真子　歩都	
	検体検査におけるパニック値報告体制の再構築と検証		検査部　副主任臨床検査技師 萩尾　修平	
	プロトコルに基づく薬物治療管理（PBPM）の取り組み		薬剤部　薬剤師　岩本　夢実	
	内視鏡AIを上手く活用するためには		国立病院機構嬉野医療センター 消化器内科　医長　山口　太輔	
	令和6年能登半島地震に対する好生館DMAT活動報告	DMAT派遣概要	災害対策室 救急科　医長　小山　敬	
		DMAT Aチーム報告	救急科　医長　松本　康 看護部　ICU看護師　田中　由美	
		DMAT Bチーム報告	医療情報部　医療情報係長 中山　佳郎 救急科　救急救命士　原口　良介	
		ロジスティックチーム報告	事務部総務課庶務係 主事　末安　正洋	
	好生館館長　退任挨拶		好生館　館長　佐藤　清治	